

# 濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1148

「NEWSな濟生人」

子どもの  
食物アレルギーを  
“食べて治す”



2

February 2025

社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

# 済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂  
Shigeru Sumitani

## トランプのアメリカ社会

国家公務員在職中にアメリカに出張したのは3回に留まったので、キャリア官僚としては少なかつた。

最初は、昭和50年春に入省同期2人での研修旅行だったので、特別の任務はなかつた。初めての海外旅行だったが、20代で若

かつたし、気心の知れた2人だったので、海外旅行に起きる多くの失敗をしながらも、学ぶことがたくさんあった。

障害者リハビリの状況を知るため、自分で旅行計画を作成し、ニューヨーク、ワシントン、アトランタ、サンフランシスコ、



ホノルルを回った。世界の障害者リハビリは、アメリカが戦争で負傷した軍人のために主導して発展していった。私たちが訪問した50年前の日米間の格差は、あまりにも大きかつた。訪れた施設では、どこでも東洋から訪れた若者に親切に教えてくれた。他の出張は、連邦政府のエネルギー省との交渉であつた。30年前のことだが、歴代にわたる懸案事項だつた。これまで書面による交渉では進展が見られなないので、相手側に入り込むことにした。交渉相手だつた政治任用の著名な大学教授出身の局長は、明るい性格で誠実な人だつた。

☆ ☆  
1月20日にトランプ政権第2期が始動する。本稿執筆時（1月8日）ではトランプの就任演説の内容は分からないが、選挙運動中の発言から「アメリカ第一主義」「保護主義」「国内企業のための規制緩和」などの方針がメインを占めるだろう。以前の大国の姿はない。

国内産業を守るため、高い関税を課す。公約の大幅減税を実施する。不法滞在外国人の国外強制退去措置の検討も進められる。さらにパリ協定からの再脱退も考えられる。

これによって心配されるのはアメリカでのインフレによる景気の悪化、失業者の増加、犯罪の多発、環境等の悪化が生じることである。これは世界に大きな影響を与えていく。

日本は、西ヨーロッパ諸国とともに平和、人権、環境、福祉という人類共通の普遍価値の重要性を訴え続けていくことが歴史的使命である。知らない間に世界は逆回転し、多くの悲劇を生じてきたことは、歴史が示しているからである。

## 昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。  
今日を未来へとつなげていくために。  
私たちは、お一人おひとりの毎日を、  
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。  
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。  
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。

感じさせた。

# topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!  
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する  
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。  
済生コンシェルジュがおすすめする記事を  
ご紹介します。



P82

和歌山病院で実施された経皮的椎体形成術。同院の済生記者が職員と患者さんを取材しました。(大雑報)



P72

福岡総合病院スタッフが化学療法を受ける患者さんに手作りのクリスマスカードをプレゼントしました。

「おすすめPOINT」  
素敵な贈りもの。きっと元  
気と勇気が出ると思います。  
2021年7月号の寄稿「パー  
スデーカード」も心温まる  
物語でした!

The latter half of this magazine is covered with a rich forest of treasurable articles. What will you discover there?



P83

多彩な特技を持つ〈大阪〉野江特養城東園の利用者さん。デイサービスに通うその理由は? (大雑報)



## 表紙のことば

### リズムカルな「たんぼの貴婦人」

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

「たんぼの貴婦人」と呼ばれている冬鳥のタゲリです。頭に黒い冠を乗せて、冬の日差しに羽を緑や紫、赤などの玉虫色に輝かせ、片足を震わせてリズムをとる。胸を張り上半身は姿勢良く数歩小刻みに

歩く。ふと立ち止まりまた片足でリズムをとる——。ミミズを探しているチャーミングなその姿はまるでダンスのステップを踏んでいるようです。広々とした冬の田んぼをかわいい貴婦人が彩ります。



# 済生

SAISEI

CONTENTS  
FEBRUARY, 2025

## NEWSな済生人

子どもの食物アレルギーを“食べて治す”  
「食物経口負荷試験」を年間2000件  
〈茨城〉水戸済生会総合病院 小児科主任部長

貴達俊徳さん 06

## 済生会交差点

〈心強い地域の味方〉新たな土地に飛び出した、二つの小規模児童養護施設+盛りだくさんのプログラムに、子どもたちは大興奮!!  
10周年のクリスマスプロレス／〈投稿・看護補助者のキャリアアップ〉看護補助者の経験を生かし介護福祉士へ! 他職種と密に連携して患者ケアに携わる

連載 機関誌「済生」が  
創刊100年! 20

巻頭コラム 済生会の不易流行論 トランプのアメリカ社会 理事長 炭谷 茂	03
NEW topics★コンシェル 表紙のことば 久保田真由美	05
日本損害保険協会補助事業完了のお知らせ	15
ソーシャルインクルージョン	16

この人 浅野和之 22

口福につぼん 吉井省一 24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ  
いまいみさ 26

TOPICS 28  
載々、大雑報 81

題字協力：石飛博光  
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

〈茨城〉水戸済生会総合病院  
小児科主任部長

き たつ とし のり  
**貴達俊徳**  
さん



**子どもの食物アレルギーを“食べて治す”  
「食物経口負荷試験」を年間2000件**



食物アレルギーが十分に改善した子どもたちにはメッセージカードでお祝い

〈茨城〉水戸済生会総合病院ではアレルギーの原因食物を少しずつ食べて治す「食物経口負荷試験」を年間2000件実施しています。体制を作り上げた小児科主任部長の貴達俊徳さんに、小児食物アレルギーの現状や同院の食物経口負荷試験について伺いました。

（静岡済生会総合病院 済生記者 酒井あい）

**酒井** 子どもの食物アレルギーを「食べて治す」治療を行なっているそうですね。

**貴達** 「食物経口負荷試験（以下、負荷試験）」といいます。食物アレルギーの診断や治療のため、医療者の監督の下でアレルギーが疑われる食物をごく少量ずつ食べる試験です。

**酒井** そもそも食物アレルギーは治るのですか？

**貴達** 乳幼児期に食物アレルギーを発症しても、特に鶏卵、小麦、牛乳が原因のものは治りやすいといわれています。6歳までにこれらの原因食物を食べられるようになった人の割合は、鶏卵が73%、牛乳と小麦が約70%という報告もあります。

**酒井** 子育て経験のある親としては、極力食べないようにしようと思いがちです。

**貴達** 原因食物を全く口にしないで

いると、逆にアレルギーが治りづらくなってしまう。そのため「必要最低限の除去」を行なうことが重要です。

**酒井** 必要最低限の除去とは？

**貴達** 「食べる」と症状が出る食物だけを除去する。「症状の出る食物でも、症状の出ない範囲で積極的に摂取する」という付き合い方です。そうすることで治りも早くなります。

**酒井** なるほど。必要最低限の除去はどうやって行なうのですか？

**貴達** 負荷試験をします。試験の目的は①食物アレルギーかを正確に診断する、②（食物アレルギーと診断された人に対し）食べられる量を確認する、③（負荷試験を受けている人に対し）治っているかを確認する、の3点です。最近②の試験を受ける方が多いです。

**酒井** 負荷試験では何のアレルギーがあるかを把握するだけでなく、食べても症状が出ない量を確認できるんですね。

**貴達** 個人差はありますが、試験は1〜2カ月おきに6回受け、その度に食べる量を少しずつ増やしていきます。自宅では、試験で分かった食べられる量を食べ続けられます。そして決められた量、卵なら丸ごと1個食べて症状が出なくなれば治療は完了です。

**酒井** それでも、やはり食べることに不安はありますか？

**貴達** 試験は全卵なら1/32個、牛乳なら3ミリリットルと少量から始めます。当院での

今回は患者さんに合わせて、ピーナッツ、クルミなどを用意しています。  
**酒井** このクルミの粉末、0.06グラムですか!? くしゃみをしたら飛んでいきそう。  
**貴達** アナフィラキシーショックを起こし



原因物質をジャムに混ぜて食べる工夫もされている

\*写真撮影時のみマスクを外しています

地域全体で  
子育て支援を行なうために  
アレルギー診療のけん引役を担いたい



診療の基本は「必要最低限の除去」と話す貴達医師。左は聞き手の酒井さん

# 食物アレルギーの子どもを持つ親の 悩みに寄り添った 治療を



静岡済生会総合病院の小児科でも負荷試験を実施。自作のパンフレットは子どもにも理解してもらえるように、治療内容をひらがなやイラストで優しく説明している



エドクターで管理栄養士の深谷奈々さん。患者のお母さんから「子どもがオムレツを食べられるようにな



「なあってうれしい」と言われ、「私もうれしかった」と話していた



1歳未満の乳児から治療を受けられる体制を整えている。試験では原因物質を1/100グラム単位で調整して慎重に行なわれる

たことがある子なので、最初は0.01グラムから始めました。

**酒井** 静岡済生会総合病院でも負荷試験を行なっていますが、食べるときに嫌がる子どももいて大変だと聞きました。

**貴達** それもあり、当院では低年齢から積極的に試験を行なっていて、生後10カ月前

後のお子さんが多いです。最少は生後5カ月です。

**酒井** 物心がついた子どもへの工夫は？

**貴達** 混ぜて食べるためのジャムなどを用意しています。今回はイチゴジャムです。

**酒井** 食べた後はどうするのですか？

**貴達** 2時間様子を見て、問題なければ食事指導を受けてもらいます。例えば卵アレルギーでは「卵を一つ使ったホットケーキを1/8切れ食べられる」などと説明します。

**酒井** 静岡済生会総合病院では、お子さんと親御さん向けに試験の説明や注意事項

の

るのですか？

**貴達** 食物アレルギーである6歳未満の子どもの割合は、ここ10年で1.7倍になっ

ています。食生活が多様化し、アレルギーの原因食物が増えたことなどが原因です。

**酒井** ナッツ類のアレルギーも初耳です。

**貴達** ナッツ類を置いてみるとそのタンパク質が空気中を浮遊しますが、それが体内に入り込むことで発症します。皮膚の状態が良ければ基本的には問題ないの

で、保護者の方はお子さんの肌荒れをケ

アしてあげてください。

**食べ続けられれば治ると知ってほしい**

**酒井** 私も子どもに「何か食物アレルギーがあるのでは？」と疑ったら食べさせなかつたと思います。

**貴達** そうですよ。同じように考える保

項をまとめた資料を渡しています。そこで食べ合わせの提案などもしています。

**貴達** 素晴らしいですね！ 当院では、食事指導は管理栄養士にすべて任せています。管理栄養士たちは小児アレルギーエドクターという難関資格に挑戦するなど日々知識を蓄えてくれていて、お子さん一人ひとりに合わせて食べられる量を厳密に計算し、親御さんに間違つた情報を伝えないよう取り組んでいます。

**酒井** ささまざまな職種と協力しているのですか？

**貴達** この資格を目指して看護師も勉強してくれていて、患者さんに症状が出たときの対応などでとても助かっています。

**負荷試験 年2000回**

**酒井** 負荷試験の実施数はどれくらいありますか？

**貴達** 昨年度は1033件実施し、今年度は10月末時点ですでに1011件行なっています。今年度からは年2000件実施できる体制を整えています。

**酒井** 2000件も！ 静岡済生会総合病院はそこまで多くなつたかと……。

**貴達** 当院も、私が赴任する2021年までは年間件数ほどだつたと聞いています。

**酒井** どうやってここまで育て上げたのですか？

**貴達** 小児食物アレルギーは食べ続けると治ることや、当院の負荷試験について解説します。子どもは給食などで原因食物を誤食してしまつていたりしますが、負荷試験を受けると症状も出てくなくなります。そうした正しい知識を多くの人に知ってもらおうと、積極的に引き受けています。

**酒井** SNSも活用しているそうですね。

**貴達** インスタグラムや病院のホームページで、負荷試験の説明や、卒業生の声を掲載しています。事務部と頑張つて作った甲斐あって、毎月4万ページビューを獲得しています。

**酒井** 地域のかかりつけ医への広報は？

**貴達** 学会で発表しているほか、負荷試験を受けた子どものかかりつけ医に結果報告の手紙を必ず書くようにしています。

「取材を終えて」……

最終優しい笑顔で話していた貴達先生。

「1人でも多くの子どもに食物アレルギーを克服してほしい！」そんな熱い情熱を感じ

た。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。

**貴達** 茨城県出身の私は、地元で子どもたちの役に立ちたいと思い当院に入職しました。それまでにアレルギー中心拠点病院で培った知識をもとに、負荷試験を始めました。

**酒井** 21年当時はコロナ禍ですよ。

**貴達** はい。その影響で小児病棟が小さく

すか。貴達先生が水戸にきた経緯も教えてください。



貴達 院長や看護師長に負荷試験をやりたいと相談したところ「ぜひやりましょう」と言ってもらい、始めることができました。

**酒井** 病院側の理解があつたのですか？

**貴達** そして赴任から1カ月後に1件実施しました。師長もほつとしていたと思いますが、私が「次は同時に4人試験できるようにしたいです」と言つたら驚いていました(笑)。もちろん協力してくれて、初年度は計211件実施できました。

**酒井** 初年度から……すごいです。

**貴達** 現在は週4日、1日2回で最大12人が試験可能で、約500人が通院中です。

**食物アレルギーは10年で1.7倍に！**

**酒井** アレルギーの患者数自体も増えてい

るのですか？

**貴達** 食物アレルギーである6歳未満の子どもの割合は、ここ10年で1.7倍になっ

ています。食生活が多様化し、アレルギーの原因食物が増えたことなどが原因です。

**酒井** ナッツ類のアレルギーも初耳です。

**貴達** ナッツ類を置いてみるとそのタンパク質が空気中を浮遊しますが、それが体内に入り込むことで発症します。皮膚の状態が良ければ基本的には問題ないの

で、保護者の方はお子さんの肌荒れをケ

アしてあげてください。

**食べ続けられれば治ると知ってほしい**

**酒井** 私も子どもに「何か食物アレルギーがあるのでは？」と疑ったら食べさせなかつたと思います。

**貴達** そうですよ。同じように考える保

項をまとめた資料を渡しています。そこで食べ合わせの提案などもしています。

**貴達** 素晴らしいですね！ 当院では、食事指導は管理栄養士にすべて任せています。管理栄養士たちは小児アレルギーエドクターという難関資格に挑戦するなど日々知識を蓄えてくれていて、お子さん一人ひとりに合わせて食べられる量を厳密に計算し、親御さんに間違つた情報を伝えないよう取り組んでいます。

**酒井** ささまざまな職種と協力しているのですか？

**貴達** この資格を目指して看護師も勉強してくれていて、患者さんに症状が出たときの対応などでとても助かっています。

**負荷試験 年2000回**

**酒井** 負荷試験の実施数はどれくらいありますか？

**貴達** 昨年度は1033件実施し、今年度は10月末時点ですでに1011件行なっています。今年度からは年2000件実施できる体制を整えています。

**酒井** 2000件も！ 静岡済生会総合病院はそこまで多くなつたかと……。

**貴達** 当院も、私が赴任する2021年までは年間件数ほどだつたと聞いています。

**酒井** どうやってここまで育て上げたのですか？

**貴達** 小児食物アレルギーは食べ続けると治ることや、当院の負荷試験について解説します。子どもは給食などで原因食物を誤食してしまつていたりしますが、負荷試験を受けると症状も出てくなくなります。そうした正しい知識を多くの人に知ってもらおうと、積極的に引き受けています。



酒井 地域に知ってもらうに必要なのは治療を必要としている患者数に対し、医療機関の受け皿はまだ足りていないと感じています。理想は仲間を増やして地域全体で子育て支援を行なうことです。その先駆けとして、当院が小児食物アレルギー診療を引っ張っていったらと考えています。

**酒井** 最後に患者さんやご家族へのメッセージをお願いします。

**貴達** 食物アレルギーは必ずしも「永久に食べられない」のではないと知ってもらいたいです。アレルギー診療というと採血のイメージがあるかもしれませんが、負荷試験という選択肢もあります。お子さんのアレルギーでお悩みの方は、ぜひかかりつけの医療機関に相談してみてください。

じました。想いはスタッフにも浸透しているからこそ連携して年間2000件も実施しているのだと感じました。(酒井あい)

109 SAISEI | 2025 FEBRUARY

109 SAISEI | 2025 FEBRUARY

109 SAISEI | 2025 FEBRUARY

109 SAISEI | 2025 FEBRUARY

109 SAISEI | 2025 FEBRUARY

109 SAISEI | 2025 FEBRUARY



廊下にある「意見箱」。生活面の悩み事や食事のリクエストなど子どもたちの意見・要望が気軽に投函できる



「済生」1月号・NEWSな済生人の取材と併せて「わかな」と「あおば」を訪問した

# 済生会 交差点

## SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。

積極的に触れ合っています。新参の施設やそこに住む子どもたちにとって、とても心強い味方です。もう一人、地域の声としてお

話を聞いたのはヘアースalon Hair Salon Freiの店長の肥田英司さん。同年代のお子さんを持つ肥田さんは、美容師という職業柄もあって、「なんとなく子どもたちが思っていることや言いたいことが分かる」と良き相談相手になっています。肥田さんの働く姿を見て、将来美容師になりたいと相談した子どももいたとのこと。それも肥田さんの仕事のやりがいですが、

「わかな」「あおば」とも、1階は広々としたリビングダイニングやキッチン、お風呂などがあり、2階には個室。余暇時にはテレビを見たり、寄贈してもらったゲーム機で遊ぶといったこの家庭でも見られるような光景が広がる



「わかな」での暮らし（「済生」2020年5月号より）



「あおば」での暮らし（「済生」2023年5月号より）

話を聞いたのはヘアースalon Hair Salon Freiの店長の肥田英司さん。同年代のお子さんを持つ肥田さんは、美容師という職業柄もあって、「なんとなく子どもたちが思っていることや言いたいことが分かる」と良き相談相手になっています。肥田さんの働く姿を見て、将来美容師になりたいと相談した子どももいたとのこと。それも肥田さんの仕事のやりがいですが、

川奈臨海学園ではさまざまな職種の職場見学を行なっています。大変なこともしっかりと伝える。あとは専門学校や国家試験のことを話題にすることもあります」と語りました。

高橋麻紀施設長は「以前の子どもたちの憧れは身近な保育士などの職業が多かった。それもすばらしい目標だが社会は本当に広いんだよ、ということを伝えていきたい」といいます。肥田さんのように地域のいろいろな職業の方との交流は子どもたちの夢を育むという面でもとても大きな意味を持ちます。（メディアカル・リープ）

岩谷純二



## 新たな土地に飛び出した

### 二つの 小規模児童養護施設

心強い地域の味方

〈静岡〉川奈臨海学園

川奈臨海学園が運営する地域小規模児童養護施設「わかな」と「あおば」。それぞれ定員6人、男女に分かれて担当職員5人と共に生活を送っています。平成28年の児童福祉法の改正では「新しい社会的養育ビジョン」として、子どもが権利の主体であることや「より家庭に近い環境での養育」が優先されることが明記されました。一時は定員1000人の大舎制だった川奈臨海学園も体制変更により、令和2年に民間住宅を借用して家庭に近い環境で養育する小規模児童養護施設「わかな」を開所。同年に学園の新築工事に着手し、翌年に新園舎が完成しました。新

「あおば」から車で10分ほどにある城ヶ崎海岸。伊豆半島ジオパークのひとつ



「あおば」で話を伺った宮川区長

園舎は六つのユニットに分かれ、定員36人に。そして令和5年には「あおば」が開所しました。施設を温かく受け入れた地域の声

「わかな」と「あおば」は母体となる川奈臨海学園からそれぞれ

近隣の小学校の交通指導員をしていて、「あおば」の子どもたちも含め、地域の子どもたちと



同・肥田さん

れ車で15分と20分の位置にありますが、生活の拠点が変わることによる環境の変化は少なくありません。昭和30年開設の川奈臨海学園とは異なり、新たな地域での関係構築は容易ではありません。それでも地区のお祭りに積極的に参加するなどして少しずつ存在を認知してもらい、今では近隣の住人から新鮮な魚介類や果物をもたらうなど良好な関係を築いています。

「生活補助や支援も充実していて新しく移り住んできた人を受け入れやすい土壌がある」と話すのは、「あおば」が所在する伊東市八幡野区の宮川正生区長です。宮川さんは毎朝約1時間、

看護補助者の経験を生かし  
介護福祉士へ！  
他職種と密に連携して  
患者ケアに携わる

看護現場から 投稿記事  
看護補助者の  
キャリアアップ

〈鹿児島〉  
川内病院



瀬戸西さん(右)と病棟師長の下舞さん

「済生会交差点」のコーナーでは、昨年8月号から看護職や介護職に継続的にスポットを当て、求められる役割や仕事のやりがいなどについて特集しています。

〈鹿児島〉川内病院・5階東病棟に勤務する瀬戸西明日香さんは、看護補助者の実務経験を生かして令和4年に介護福祉士の資格を取得。チャレンジの

業務経験を積んでいく中で、介護福祉士の資格を持つ先輩スタッフが毎朝のケアカンファレンスで看護師と患者さんのケアについて情報交換をしたり、ケアスケジュールを立案したり、きびきびと働

「介護福祉士を目指そうと思っただけ」  
当院で看護補助者として働き始めたのは平成27年5月

看護補助者(介護福祉士)  
瀬戸西明日香さん

きつかけや現在の業務内容、今後の目標などについて、瀬戸西さんと病棟師長の下舞佳美さんの投稿記事をご紹介します。



①食事介助では、患者さんが食べやすいようタイミングを見計らいながら、ゆっくりとスプーンを口へ運ぶ ②患者さんの食事摂取量をカルテに入力する瀬戸西さん ③患者さんがとても楽しみにしている特浴。お風呂でさっぱりしていただいた後はヘアドライヤーで髪を乾かし、髭剃りなどの整容を行なう



く姿を見て「かっこいいな、こんな風に仕事をしてみたいな」と思うようになりました。介護福祉士としてグループホ

ームで勤務する夫の「利用者さんから感謝の言葉をもらったときはうれし、やりがいを感

に代わり挨拶した竹居昭子名誉施設長は「相手の技にやられても何度でも立ち上がる勇気をプ

ロレスから学んでほしい」と子どもたちにエールを送りました。山近氏は「学園の子どもたち

はいつも真剣に選手を応援している。レスラー・スタッフ・支援者などの大人たちはこれから

も全力で彼らの期待に応えていく」と語りました。(本部広報課 河内淳史)



盛りだくさんのプログラムに、子どもたちは大興奮!!  
10周年のクリスマスプロレス

〈静岡〉川奈臨海学園

川奈臨海学園を応援してくれる山近義幸さん(中央)白鳥宏明さん(右)。左はプロレスファンで済生記者の鈴木一大さん

竹居昭子名誉施設(前列中央)



12月14日に旧川奈小学校体育館でプロレスイベントが開かれ、学園の子ども20人が試合を観戦、プロレスラーとの交流も楽しみました。

このイベントは(株)NIHONDOの山近義幸代表が10年前に学園の子どもたちのために企画、毎年クリスマスの時期に開かれています。学園の運営に対する寄付者や伊東市議会議員、地元住民も参加して子どもたちと触れ合いました。

中学生はリングの設営など会場準備を自ら進んで手伝いました。小学生は試合中、手をたたいたり大きな声で選手を応援、プロレスラーもドロップキックやボディースラムなど多彩な技で声援に応えました。今回はサックスフォン奏者によるクリスマスソングの披露や、駅前などで通勤する人を勝手に応援するチアリーダーも参加してイベントを盛り上げました。

試合後には選手が川奈臨海学園を訪問。子どもたちと腕相撲などをして過ごしていました。

子どもへの期待に応える  
全力で  
出張で不在の高橋麻紀施設長

information

## 一般社団法人 日本損害保険協会補助事業完了のお知らせ

この度、令和6年度の日本損害保険協会の寄付金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

記

事業名 令和6年度 救急医療機器整備

寄付金額 1億1,092万円

### 事業の内容

〔支部〕	〔病院〕	〔機器〕
岩手県済生会	北上済生会病院	移動型X線TV装置
茨城県済生会	龍ヶ崎済生会病院	X線撮影装置
群馬県済生会	前橋病院	X線撮影装置
大阪府済生会	泉尾病院	X線TV装置
愛媛県済生会	松山病院	CRシステム
福岡県済生会	大牟田病院	磁気共鳴断層撮影装置
佐賀県済生会	唐津病院	CRシステム

完了年月日 令和6年12月24日



前橋病院



大牟田病院



毎朝の病棟でのカンファレンスでは看護師や看護補助者などが集まり、患者さんのケアや治療、検査がスムーズに進められるよう情報共有や意見交換をする



背中を押され、令和3年、介護福祉士を目指すことにしました。——子育てや家事、仕事もしながらの試験勉強は大変だったのではないのでしょうか？  
令和3年6月から試験勉強を開始しましたが、時間の確保には苦労しました。仕事が終わると子どものお迎えに行き、帰宅後は子どもの面倒を見ながら家事をこなし、勉強ができる時間は子どもたちが寝た後。翌年1月の試験まで毎日勉強しました。

### 「介護の仕事が大好き」の 声に助けられて

看護師長 下舞佳美さん

働きながら介護福祉士の資格を取ってさらに経験を積み、正規職員になった瀬戸西さんは大変な努力家です。いつも笑顔で患者さんに優しく声をかけながら生活援助を行なっています。正規職員には7時半～16時の

早出勤と11～19時半の遅出勤があります。まだ小さいお子さんを抱えて、最初は本人もできるかどうか不安だったようです。早出勤では子どもたちを車に乗せて一緒に通勤し、遅出勤のときは夕食の準備を済ませてから出勤。夫婦で協力し合い、役割分担をしながら頑張ってくれています。

介護福祉士実務者研修は通信制の学校で受講しましたが、通学が必須の科目も一部あります。通学する日はご飯の準備を前日に済ませ、子どものお迎えは夫に行ってもらうなど、夫婦で協力することで育児・家事との両立を図りました。  
——現在の業務内容を教えてください。  
介護福祉士として、看護師の指示のもと患者さんのケアの業務全般を行なっています。具体的には、寝たきりの方の洗面や清拭、食事介助、おむつ交換、洗髪や手足浴など。また、看護師の指示により座位のとれない患者さんの特浴（寝たままの状態での入浴できる浴槽）に入れたり、シャワーが可能な方のシャ



川内病院

介護も任せてもらえるようになりました。

ワー介助を行なったりします。資格取得後はADL（日常生活動作）が低い患者さんの入浴

亡くなった方の最後のケアをさせていただくこともあります。その他、環境整備やシーツ交換、退院後の片付けもしています。ケアを通して患者さんとの関わりが増える中で「ありがとう」「気持ち良かった！」など感謝の言葉をいただけるのが一番やりがいを感じ、うれしいです。  
——今後の目標はありますか？  
病棟スタッフの一員として他の職種と密に連携しながら、今後も患者さんのケアに携わっていきたくです。また、高齢化社会で増えている認知症患者さんを支えるために、認知症に関する資格でチャレンジできるものがあれば積極的にチャレンジしようと考えています。

介護の仕事は食事介助、入浴介助、排泄介助など多岐にわたります。時間にも追われる大変な仕事ですが、「患者さんから『ありがとう、気持ちよかった』と言ってもらえる、この介護の仕事が大好きです」と話してくる瀬戸西さんにも感謝しています。これからも家庭と両立しながら介護の仕事が続けられるよう、支援していきます。





済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。  
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。  
だれも排除されないまちづくりを目指し、  
全支部・施設が1600の事業を展開します。

## ふるさと企業大賞を受賞 小樽市と連携し地域づくり推進

### 北海道済生会

北海道済生会は令和6年度ふるさと企業大賞（総務大臣賞）を受賞し、12月18日に小樽市役所で表彰状伝達式が行なわれました。

この賞は地域総合整備財団（ふるさと財団）が実施している表彰制度で、ふるさと融資を活用した民間事業者の中で、地域における経済効果、雇用やイメーリアップ等の点で魅力ある地域づくりに特に貢献していると認められた企業に贈られます。



賞



これからの行政・民間と連携し、地域住民が自分らしく生き生きと「暮らしたい」と感じることができるようまちづくりを推進します。

（ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成）

今回の受賞は、小樽市と行なっている地域共生社会実現に向けた取り組みや、済生会ビレッジを拠点としたさまざまな事業の展開、ウエルネスタウンづくりへの貢献が評価されたものです。

## デザイン利用料を子どもにも還元 活動のモチベーションアップにも

### 〈北海道〉発達支援事業所きつずてらす

「小樽フォント」は当施設を利用する発達障害の子どもたちとデザイナーとの共創アートワークです。済生会職員の手元に渡った2025年版済生会手帳にも「せいはいは」というデザインが採用されています。

このプロジェクトでできた作品の利用料の一部が、デザイナーを介して子どもたちへと還元される仕組みになっています。

子どもたちには賞状とサーティワンアイスクリームのシングルチケットをプレゼント。見事デザインが採用された子どもには、別途図書カードも副賞として進呈しました。デザイナーからも、自分たちのデザインを入れたフォトフレームをサプライズとしていただきました。

（管理者 小玉武志）



## コープみらいフェスタに出展 地域や企業に済生会の活動をPR



### 〈東京〉中央病院

済生会と生活協同組合コープみらいは、食や健康など両者の特長を生かしたまちづくりの推進を目的に、誰一人取り残さないインクルーシブ社会の実現に向けた連携を強化する協定を昨年5月に締結。12月1日には「コープみらいフェスタ in 東京ビッグサイト」に東京都済生会（中央病院・向島病院）としてブースを出展しました。

## 妊産婦や親子を支援するために 情報共有と意見交換の場を

### 〈大阪〉吹田病院

当院の「なでしこキラキラWAY」事業では、必要な支援が届いていない妊産婦や親子に、妊娠早期から積極的に働きかけ支援を届けることを目指して活動しています。

済生会ソーシャルインクルージョン事業や分娩・プレコ

ンセプション外来などについての地域や企業に向けたリーフレットや、消毒ジェルなどの配布を行いました。

資料やグッズは約1000人に配布することができ、来場者から東京都済生会の取り組みなどに関する質問を受けることもありました。また、子ども向けに白衣を着用しての記念写真撮影を行ない、保護者からも好評でした。

（社会貢献推進委員会委員長 町田洋治）



演じていただき、当院の助産師が産前産後訪問の実践について報告しました。その後はグループに分かれ、活発な意見交換を行いました。

その一環として、12月5日に第5回産前産後ケアセミナーを開催し、近隣の関係機関や院内職員合わせて約60人が参加しました。

セミナーの参加理由として「他機関との情報共有や今後の改善点を話し合いたい」「地域での産前産後ケアの現状や病院の現場での事情を知りたい」との意見が寄せられており、今後も地域の支援機関との連携を深めてまいります。

（福祉医療支援課 田崎千里）



## インクルーシブ防災活動、要配慮者支援をテーマに訓練

### 〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑

西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会が主催する「西豊田インクルーシブ防災活動」の宿泊型訓練が、12月14、15日に西豊田小学校で行なわれました。当苑からは実行委員として2人、静岡DWA Tとして1人が参加しました。

訓練は午後7時開始で、外は真っ暗で冷え込みも激しい環境でしたが、小さな子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々が



ラップボン（自動密閉簡易トイレ）の組み立て



（地域相談員 望月亜紀）

集合。障害者グループホーム、放課後等デイサービスの利用者・職員も30人ほど参加し、総勢165人（うち宿泊者59人）が訓練に臨みました。

今回はテーマを要配慮者支援に絞り、避難所内の福祉避難スペースづくり、静岡DWA T隊員の能登支援報告、防災塗り絵のワークショップなどを実施。訓練ではありますが、皆さんが一つひとつの内容・環境を楽しんでいるように見えました。



12月8日、鳥取市内にある鳥取県更生保護給産会でインフルエンザワクチンの訪問接種を実施しました。

同施設は刑務所から出所して帰るところがない元受刑者を一時的に保護し、社会復帰を支援しています。インフルエンザ予防接種の費用捻出が難しく、近隣で協力を依頼できる医療機関



SW）、阿部直子副看護師長が現地へ。体調不良の1人を除く入寮者13人の予防接種を無事終えることができました。

施設からは「近隣の医療機関との連携が図れず、医療の空白地となっていた。支援を受けることができて大変助かった」との感謝の言葉をいただきました。

（済生記者 亀尾美子）

## 100キロ離れた更生保護施設でインフルエンザの訪問接種

### 〈鳥取〉境港総合病院

がないため、100キロ以上離れた当院に相談が寄せられました。

当日は、地域医療総合支援センター・岡野淳一センター長、医療連携課・船本幸秀課長（M

## 大分大学学園祭に出店 地域との交流で共生社会実現へ

### 大分県地域生活定着支援センター

11月4日、今年も大分大学園祭に模擬店を出店しました。当センター職員8人のほか、刑務所を出所するなどして地域で暮らすひとり住まいの高齢者4人と学生ボランティアさんが参加しました。

皆で協力してコロッケ、ジュース、髪ゴムを販売。たくさん



### フードドライブで深まる社会貢献活動の意識

地域における社会貢献活動の一環として、12月にフードドライブを行ないました。昨今の物価高などの影響で、食べ物の寄付や寄付金などが集まりにくい危機的な状況であるとの関連団体からの呼びかけを受け、当センターに勤務する済生会地域包括ケア連携士が中心となり企画しました。

「地域における社会貢献活動の一環として、12月にフードドライブを行ないました。昨今の物価高などの影響で、食べ物の寄付や寄付金などが集まりにくい危機的な状況であるとの関連団体からの呼びかけを受け、当センターに勤務する済生会地域包括ケア連携士が中心となり企画しました。」

「地域における社会貢献活動の一環として、12月にフードドライブを行ないました。昨今の物価高などの影響で、食べ物の寄付や寄付金などが集まりにくい危機的な状況であるとの関連団体からの呼びかけを受け、当センターに勤務する済生会地域包括ケア連携士が中心となり企画しました。」

「地域における社会貢献活動の一環として、12月にフードドライブを行ないました。昨今の物価高などの影響で、食べ物の寄付や寄付金などが集まりにくい危機的な状況であるとの関連団体からの呼びかけを受け、当センターに勤務する済生会地域包括ケア連携士が中心となり企画しました。」

（相談員 大石 陽）



当センターでは初の試みで、どの程度の協力が得られるのか不安でしたが、食生活に欠かせない米や麺類のほか、缶詰やレトルト食品など、1週間の募集期間で約1700点の食料品が集まりました。これらは市担当窓口を通して関係団体にお届けしました。

参加した職員からは「引き続き活動に協力したい。定期的

「引き続き活動に協力したい。定期的に実施してほしい」との声があり、多くの職員が社会貢献活動

（特養とちの木荘 済生記者 川上藍美）





当時の総裁、閑院宮載仁親王による親授式と大阪府病院（現中津病院）落成式を伝える記事（「済生」1935年（昭和10）年11月号より）

製法する迄もなく、世間の現況は貴  
 貴にのみ疾患に苦む人の多く、その  
 人々を救済して居る。此の悲愴な  
 き事象に對しては、國家、公共團體の  
 義務が及ぶ。公衆衛生の協力を以て、  
 其の窮民の九中の一は解決される  
 るのであるが、併し之を全面的に見て  
 國家の將來に對するならば、寫政者は  
 寧ろ國民に對して等閑視すべき事象  
 ではない。尤も此の困難の根本的解  
 決に努力せねばならないのである。  
 本會の如き、救済を兼行して醫政界

大の洋東  
 院病療  
 府政大會本  
 院成院病  
 式舉行せらる

閑院總裁宮殿下の台臨  
 き盛大なる御親授式並

# 機関誌「済生」が 創刊100年!



1924（大正13）年6月創刊の「済生」が発行100年を迎えました。「済生」のあゆみを紹介します。  
 戦前の大阪府済生会中津病院移転改築に当時100万円（※現代では約10億円に相当）もの寄付を行ない、  
 今でも毎年記念祭が開かれている嘉門夫妻。2人は若かりし頃から  
 農家を回る肉体労働やニット製品出張販売など、労を惜しまず東奔西走し、蓄財の基盤を築いていきました。  
 済生会への寄付に至るまでの、嘉門夫妻の後半生をご覧ください。  
 （株）白橋 西林美美・本部広報課 河内淳史

勲三等瑞宝章を受章しています。  
 ところが改築落成式を目前に  
 控えた1935（昭和10）年7  
 月、長蔵氏は持病の狭心症によ  
 り急逝してしまいます。夫の大  
 願を見守るかのように落成式へ  
 参列したコマ氏も、2年後に逝  
 去。二人を失った中津病院諸氏  
 の嘆き、哀悼の辞は当時の「済  
 生」に多数掲載されています。  
 嘉門夫妻のあまりにも多大な  
 る貢献を称えて、現在に至るま  
 で90年近く、中津病院では毎年  
 嘉門祭が開催されています。  
 日本近代化の波に乗り築いた  
 財を、惜しむことなく中津病院  
 改築に寄付した嘉門夫妻。二人  
 は新婚時代から終生、同じ「お

- 「参考文献」
- 大日本顕徳会編「遺徳顕彰録 第2輯」（1940）
  - 関西経済連合会編「斯の人を」続
  - ・日本経済を育てた人々」（1968）
  - 宮本又次「船場（風土記大阪 第1集）」（1960）ミネルヴァ書房
  - 大阪心斎橋筋卸商連盟編「せんば心斎橋」大阪心斎橋筋卸商連盟20年



中津病院嘉門記念室に保管されている夫婦の「おひつ」

ひつ」を食事に使い続けていた  
 そうです。



嘉門長蔵氏・コマ氏  
 「済生」1933（昭和8）年7月号

海外進出、  
 貿易業への事業拡大  
 国産ニット商品生産販売で確  
 固たる地位を築いた長蔵氏は  
 さらに、国外へも目を向けます。

## 嘉門夫妻物語【後編】



三善田強市知府、大阪府、氏見臨事知府、大日有ツ向氏子ト、門部、氏蔵長門部、氏吉機子、新築家門部、氏臨



直業松中津中府大府大日一月七年一十部部 式謝感嘉門嘉放  
 日界大謝感る子方氏日部嘉門部、の氏蔵長門部長者部臨の氏臨

1895（明治28）年の日清戦争終結後、中国各地に輸出を開始。販路開拓は当時、南洋まで及んでいたそうです。1904（明治37）年の日露戦争当時は、広島出張所を開設し業績好調、



大阪メリヤス紡績会社海外支店

1927（昭和2）年、嘉門夫妻は隠居。そして傘寿を迎える頃、中津病院移転改築に百万円を寄付します。夫妻は常日頃、医療を受けにくい人々に対し心を痛めていました。またこの時期、子どもがいなかった二人は、長年誠実に勤務していた店員の中世古濱吉氏を養子とし、家督を継がせています。長蔵氏は1933（昭和8）年7月に済生会名誉会員となり、国からも

1912（明治45年）年には有志と共に大阪メリヤス紡績会社を設立し取締役に就任。香港、青島、ウラジオストクに支店を開設します。  
 第一次世界大戦当時は、同盟国となっていたロシアからの軍需品大量発注を見事に完遂し、日本ニットの名声を世界に広めたと言われました。  
 さらに雑貨直輸入のために日本物産株式会社を設立、日本の貿易業躍進に寄与したなどの記録も残っています。

### 中津病院への寄付と急逝

1927（昭和2）年、嘉門夫妻は隠居。そして傘寿を迎える頃、中津病院移転改築に百万円を寄付します。夫妻は常日頃、医療を受けにくい人々に対し心を痛めていました。またこの時期、子どもがいなかった二人は、長年誠実に勤務していた店員の中世古濱吉氏を養子とし、家督を継がせています。長蔵氏は1933（昭和8）年7月に済生会名誉会員となり、国からも

西暦（年）	和暦（年）	長蔵氏年齢	コマ氏年齢	日本史上での出来事	嘉門家出来事
1894	明治27	43	37	日清戦争（～95年）	輸出を開始
1895	明治28	44	38	下関条約調印	輸出を開始
1904	明治37	53	47	日露戦争（～05年）	広島出張所開設、販売好調
1912	大正 元	61	55		大阪メリヤス紡績株式会社を設立、長蔵氏取締役就任
1914	大正 3	63	57	第一次世界大戦参戦	香港支店開設
1915	大正 4	64	58		青島支店開設／ロシアの軍需品大量注文を無事完納
1917	大正 6	66	60		中世古濱吉氏（15歳）勤務開始
1918	大正 7	67	61	シベリア出兵	ウラジオストク支店開設
1920	大正 9	69	63	国際連盟加盟	日本物産株式会社を創立
1923	大正12	72	66	関東大震災	
1927	昭和 2	76	70		隠居
1931	昭和 6	80	74	満州事変	長蔵氏、大阪府より実業功労者として表彰
1932	昭和 7	81	75	五・一五事件／満州国成立	
1933	昭和 8	82	76	国際連盟脱退	店員の濱吉氏を養子にし、後継者とする／大阪府病院（現・中津病院）へ100万円を寄付し済生会名誉会員に／済生会総裁、閑院宮載仁親王より勲三等瑞宝章授受
1935	昭和10	84	78		7月1日 長蔵氏急逝／10月8日 大阪府病院改築落成式
1936	昭和11		79	二・二六事件	
1937	昭和12		80	日中戦争（～45年）	6月16日 コマ氏逝去

- 史（1970）
- 人事調査録刊行会編「人事調査録」（1935）
  - 中津病院二十五年誌（1941）
  - 済生会五十年誌（1964）
  - 機関誌「済生」
- 次号は「二・二六事件と済生会」を紹介します。

# 浅野和之



貴重なバイプレイヤーとして  
数々の作品に出演。  
年下俳優から  
「尊敬する先輩」と慕われている  
ことでも知られる  
浅野和之さん。1作品で11役を  
演じたかと思えば、ときに  
小学生、ときにおばあさん役まで  
こなす演技力の源、  
あふれる舞台愛について  
語っていただきました。



Vol. 177

## 変幻自在に役を演じ分けるベテラン俳優 気心知れた俳優陣との競演は、極上のお楽しみ

Text: みやじまなおみ

Photos: 安友康博

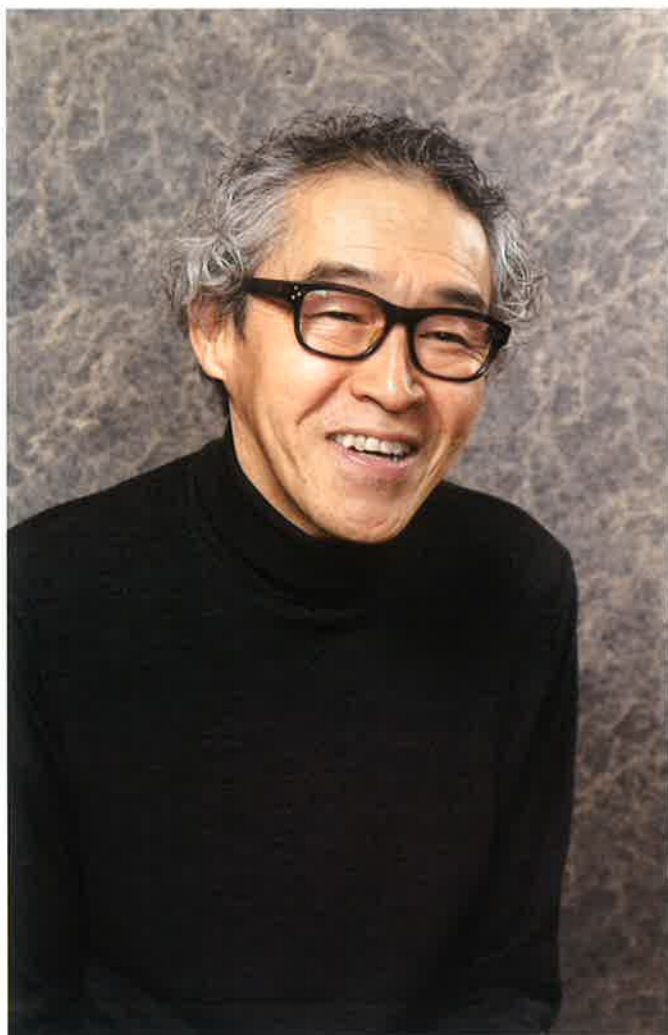
多くの演出家から信頼を寄せられ、シリアスで重厚な役から弾けた少女役まで、多彩なキャラクターを求められる俳優・浅野和之さん。「僕はアクの強い俳優ではない」と謙遜しつつ、「だからこそ余計に一つの枠に収まらない役、やったことがない役に関わりたと思うのかもしれない」と語る。

大ベテランになっても慢心せず、探求心を持ち続ける理由の一つはお客様の存在だ。「コロナ禍ですべての舞台が中止となり、精神的に落ち着かない時期がありました。でも、ついに幕が開き、お客様の歓声を聞いたとき、僕の仕事ってこんなに意味があったんだと感動しました。今もその光景を思い出すと胸が

熱くなります」  
次の作品『やなぎにツバメは』はカラオケスナックが舞台。何気ない会話から大人数たちの事情が浮かび上がる本作では、珍しく「普通のお父さん」役だという。

「大竹しのぶさん演じる元妻に頭が上がりません、気の優しい男性のイメージですが、普通の人がつつかみどころがない分、逆に難しいんです。ただ、僕にも妻と息子がいて、リンクする部分もある」とのこと。ちなみに、お家での浅野さんは？

「家に帰ると妻がずっとしゃべっているのでもっぱら聞き役です（笑）。等身大の自分を役に近づけつつ、気心の知れたメンバーと極上の会話劇を創っていただけらいいですね」



あさの・かずゆき 1954年生まれ、東京都出身。安倍公房スタジオ、劇団「夢の遊眠社」を経て、舞台上に軸足を置きながら、テレビドラマなど映像作品でも幅広く活躍中。紀伊國屋演劇賞個人賞をはじめ、2度の読売演劇大賞最優秀男優賞など受賞歴多数。三谷幸喜作品、スーパー歌舞伎シリーズにも欠かせない名優。最近の主な出演作に、舞台『リア王』『What If Only—もしももしせめて』『桜の園』、ドラマ『西園寺さんは家事をしない』などがある。

### シス・カンパニー公演『やなぎにツバメは』

美栄子（大竹しのぶ）、洋輝（段田安則）、佑美（木野花）の3人は、美栄子の母ツバメが経営する「カラオケスナックつばめ」で知り合った。美栄子が夫（浅野和之）と離婚話になったとき、洋輝が妻を病で亡くしたとき、佑美が仕事で悩んでいたとき、いつもこの店で励まし合った、3人にとって特別な場所だった。物語は美栄子の母ツバメの葬儀の夜から始まる。そこに洋輝の息子（林遣都）、美栄子の娘（松岡茉優）も集まって……

■作: 横山拓也 ■演出: 寺十吾  
■出演: 大竹しのぶ、木野花、林遣都、松岡茉優、浅野和之、段田安則  
《東京公演》2025年3月7日（金）～30日（日）紀伊國屋ホール  
《大阪公演》2025年4月3日（木）～6日（日）梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ



# 口福につぼん

吉井省一

る名古屋の「積奏」。バターサンドの他、サブレなども販売して好評を得ている人気店です。バターサンドには、「風セット」「波セット」「虹セット」とロマンチックなネーミングの詰め合わせがあり、12種類のバターサンドを自由に選んで詰め合わせることもできます。



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

よいし・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

私は愛知県にお気に入りの場所があります。それは「明治村」。犬山市にあるこの施設には、明治期の建物がそのまま移築されていて、歴史ファンの私にとってパラダイス。帝国ホテルから森鷗外・夏目漱石邸や石川啄木が下宿していた床屋まで、朝から晩までいても飽きません。

県庁所在地である名古屋市内には、金のしゃちほこで知られる名古屋城や熱田神宮などの名所だけでなく、ぶらぶら食べ歩きにぴったりの大須商店街もあるので、観光するにはもってこい。そんな愛知県で見つけたのが、とっておきの「バターサンド」。令和のスイーツ好きたちに今注目されている逸品です。

色を重ねる味を重ねる華やかな彩りのスイーツ

こちらの「バターサンド」を作っているのが、通信販売と催事の際の販売だけを行なっている「ラムレーズングラッセ」、イチ



こだわりの「積」み重なって、美味しさというハーモニーを「奏」でる。まさに店名の通り

ゴがほのかに香り立つ「フレイズシヨコラブラン」、人気のキャラメルテイストの「キャラメルウォールナッツ」、カカオ分66%のシヨコラクリームを生かした「シヨコラバナヌペカン」。

クリームチーズをブレンドした特製のバタークリームを使っているところ。濃厚な低水分バターをたっぷり使って、何度も繰り返してホイップしながら十分に空気を含ませることによつて、軽くて滑らかな口溶けなのにコクもある仕上がりになること。バターサンドの美しい彩りだけでなく、アートのパッケージがまたお洒落。それぞれのセット名をイメージしたイラストが心をほんわかませてくれるので、



コンパクトなサイズに豊かな味わいがぎゅっしり。大皿に積み重ねて「バターサンドタワー」も映えそう

贈り物にしてもきつと喜ばれるはず。

## サブレとクリームの美味なるマリアージュ

「バターサンド」のおすすめの食べ方は3通り。一つ目は、冷凍のままアイスケーキのように。二つ目は、冷蔵庫で1〜2時間解凍してから。これが通常のバターサンドの味わい方。三つ目は、冷蔵庫から出して



ラム漬けレーズンやキャラメリゼされたウォールナッツなど、トッピングもバラエティ豊か。季節限定商品もあるので、どれを選ぶか迷うこと必至



「風」「波」「虹」をイメージしてデザインされたパッケージに胸がときめく。箱を開けた瞬間の美しい彩りにも魅せられる。贈り物はもちろん、自分へのごほうびにもぴったり。左は「風」を構成する4種

しばらく置いてクリームを柔らかくしてサブレをつける食べ方。

それでは「風セット」を一つずつ紹介しましょう。それぞれ

可愛い2枚の花型のサブレでクリームを挟んであります。「ラムレーズングラッセ」はラム酒が染み込んだレーズンの芳醇さとクールの香ばしさが好対照。サクサクしたサブレが、滑らかなクリームとともにホロホロ崩れていく食感がクセになりそう。「フレイズシヨコラブラン」は甘いホワイトチョコと酸味があるドライベリーのパランスが爽やかで、サブレにもイチゴが練り込まれているのがポイント。「キャラメルウォールナッツ」はダークシヨコラのサブレと焦がしキャラメルのクリームが大テイスト。キャラメリゼしたクルミのトッピングも見事。「シヨコラバナヌペカン」はバナナの風味がたっぷり。焦がしココアを練り込んだサブレが味を引き締めて、高級感ある味わいに仕上がっています。



風セット バターサンド(4種)  
2,380円(税込・送料別) 賞味期限……冷凍90日

お取り寄せ・お問い合わせは

積奏

〒468-0009 愛知県名古屋市天白区元植田1丁目301番地

ホームページ: <https://seki-sou.com>

※紙袋は別売(税込120円)



# 開運きつねちゃん

作品 いまいみさ



— 山折り  
- - - 谷折り  
↻ 裏返す

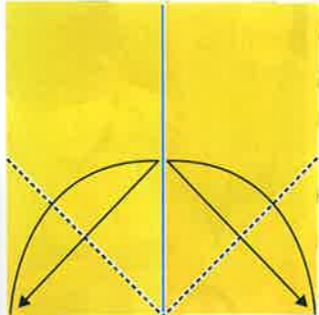
## 顔

1 1/2に切った折り紙に折り目を付けて、図のように切る

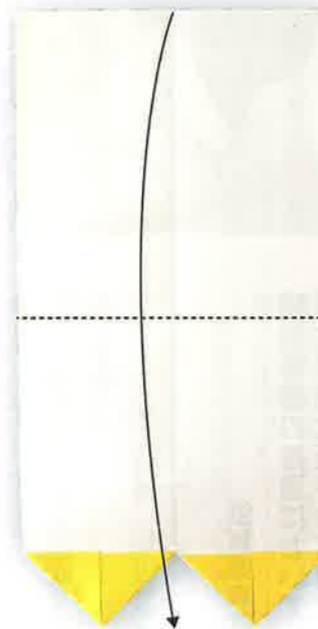
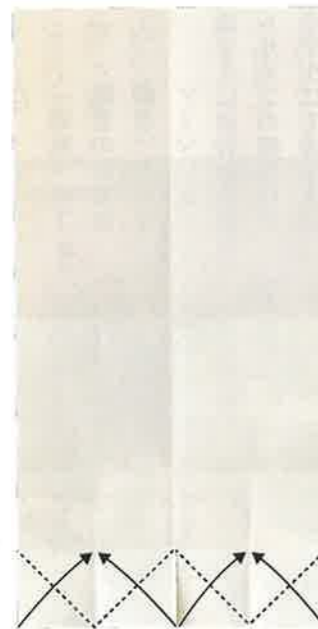
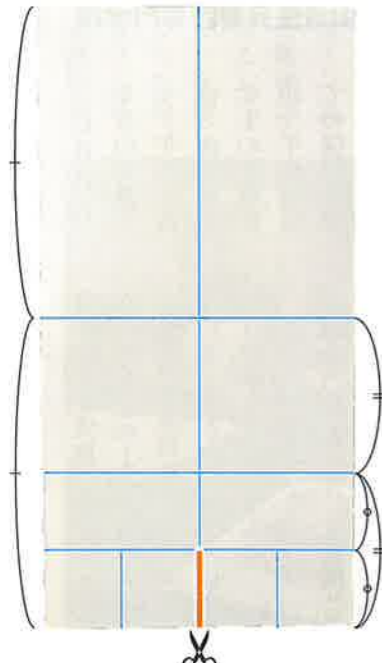
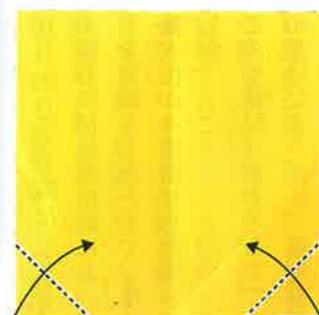
2 折り目に合わせて折る

3 中心線で折る

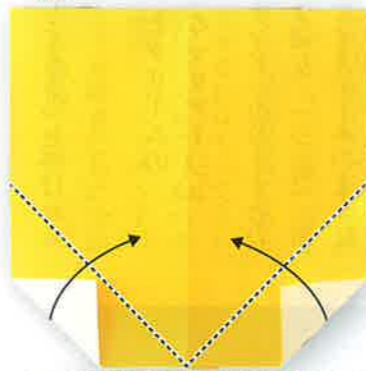
4 中心線に合わせて折り返す



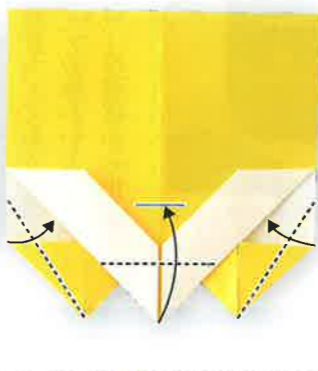
5 下の角を折り目まで折る



6 折り目で折る



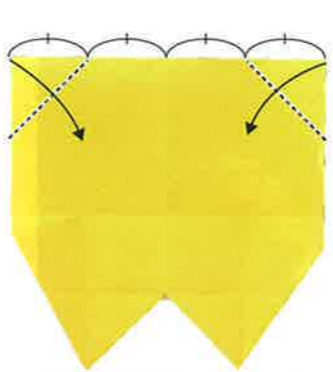
7 下と左右の角を折る



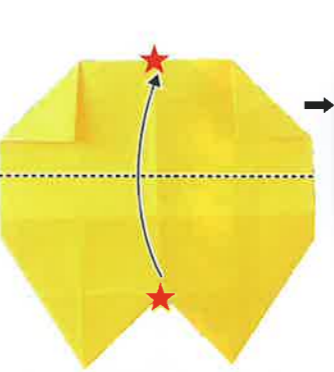
8 裏返す



9 上の角を折る



10 上の辺まで折り上げて裏返す



11 丸シールなどで顔を完成させる



## 体

2 半分に折る

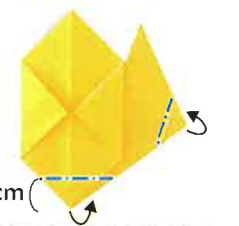
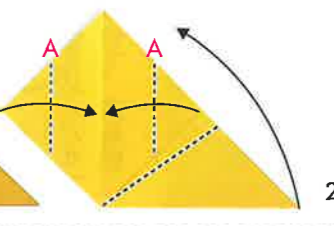
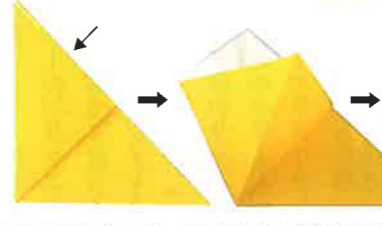
3 左の辺に合わせて折る

1 折り紙を三角に折る

4 三角の中に指を入れ、中心を開いて四角に折る

5 左右の角を中心に折り、三角(A)に合わせて折り、内側に入れる

6 点線でうしろに折る



7 顔と貼り合わせて完成



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トヨー



愛媛県魚類養殖協議会から松山特養に「久良のぶり」が贈られました。(50ページに記事) ぶりしゃぶ?塩焼??やはり照り焼きでしょうか!? おいしそうな写真…ありがとうございました(「済生」編集部)

# topics

## 協同学習を通して 多職種連携を学ぶ

岡山済生会看護専門学校

12月11日、本校の看護学生3年生と他校の歯科衛生士の3年生が今年度初めての協同学習を行ないました。

「麻痺・嚥下障害のある高齢者」というテーマに基づき、まず看護学生は歯科衛生学生にバイタルサインの観察技術を、歯科衛生学生は看護学生に口腔ケア技術を指導する相互指

導の演習を実施。次に「互いの専門性をどのように感じたか」「職種間の連携についてどのように考えるか」をテーマにグループ討議を行ないました。

終了後、学生たちからは「互いの専門性を共有し多職種と連携することの大切さを感じた」「それぞれの得意分野を生かして連携することで患者のより良い生活をサポートできると感じた」といった声があり、多くの学びがあったようです。4月からの専門職としての活躍が楽しみです。

(副校長 河野恵子)

★互いの専門性を共有し、理解する。視野が広がる良い取り組みですね。

(本部広報課 杉山菜史)

## 滋賀県病院

### 臓器移植の推進において 厚生労働大臣から感謝状

10月20日、当院は2024年の臓器移植推進活動において顕著な貢献をしたとして、厚生労働大臣から感謝状を贈呈されました。

この受賞は、患者さんやご家族の思いに寄り添い、臓器移植

医療の推進に真摯に取り組んできた当院の努力が高く評価されたものです。

救命救急センター長の越後整医師は「医療者一人ひとりが患者さんやご家族の思いを大切にしながら、共に歩んできた成果です。今後も安心して臓器移植医療を受けられる環境を整え、その発展に貢献していきたい」と話しました。

(済生記者 有馬真由美)

## 〈大阪〉千里病院 看護の質向上に向けて スペシャリストが集結!

11月17日、当院で大阪府済生会の「専門・認定看護師交流会」を開催しました。

当日は7施設から17分野、計

42人の専門・認定看護師が参加

各施設での活動内容を共有するとともに、専門・認定看護師が協働するための課題や、今後の展望について検討しました。さすがスペシャリストが集まった場だけあり、活発な意見交換が行なわれました。



## 〈神奈川〉横浜市東部病院 電流の力で塩味を増強

11月10日、当院で開催した市民公開講座で、キリンホールディングス株式会社との協働プロジェクトの一環として「エレキソルトスプーン」の体験会を行ないました。病院での体験会は初の試みだそうです。

事前申し込みをした26人が参加し、塩分控えめのコンソメスープをエレキソルトスプーンで試食しました。スプーン先端から微弱な電流が食品に流れることで、塩味や旨味などを増強。疾患などのため塩分を控えなければいけない人が減塩食



をおいしく食べられることが期待されます。

栄養部では今後、エレキソルトに関する共同研究を進め、最終的には病院給食での導入も検討しています。

(済生記者 荒木愛美)



〈新潟〉 三条療育サポートセンターひまわり

獅子舞がやって来たぞ！

1月7日、児童発達支援と放課後等デイサービス事業を行っている療育サポートセンター「ひまわりのお正月行事「獅子舞がやって来る」」に児童8人が参加しました。

はじめに、獅子舞に頭を噛まれるといいことが起きることを紙芝居で学習。



そしてドキドキしながら「ししまいさーん」と大きな声で呼ぶと獅子舞が登場！興味津々で近づく子どももいればびくりして泣いてしまっ子もいましたが、一人ひとり頭を「パクツ」と噛んでもらい、笑顔になっていました。

おしまいに「修学旅行でお泊りすることを頑張りたい」苦



手な体育を頑張りたい」など、それぞれ今年の抱負を発表しました。

昔ながらの行事を通して、子どもたちが季節を感じる機会となったならうれしいです。

(三条病院 済生記者 樋口拓也)

滋賀県済生会在宅支援センター

能登半島地震の被災者支援に感謝状

令和6年能登半島地震では、理学療法士の岡本陽介さんをJ.R.A.T（日本災害リハビリテーション支援協会）の一員として被災地に派遣しました（本誌2024年3月号P.49）。J.R.A.Tはリハビリの専門家が被災地で活動することを目的



とし、特に高齢者や障害者などの生活不活発病の予防と対策を行なうチームです。岡本さんは金沢市で1・5次避難所の新エリア立ち上げ支援や、連日避難してくる高齢者の状態のアセスメントを担当。また、避難所で安全に生活するために段ボールベッド設置や福祉用具の調整、環境調整を実施しました。普段の業務では経験できないことも多く、貴重な体験となったようです。

この活動に対し、11月7日、厚生労働省老健局から感謝状が授与されました。

(センター長 安井明子)

福岡総合病院

受診受療支援で表彰

11月20日、福岡市東区のみみ



きスクエアで更生保護制度施行75周年を記念した「第52回福岡県更生保護大会」が開催され、当院の医療相談室が福岡保護観察所長から表彰されました。

この大会では、長年にわたり更生保護活動に尽力している保護司や民間協力者が一斉に集い、取り組みへの表彰が行われました。

当院では平成22年から「なでしこプラン」として事業化し、



〈新潟〉 特養長和園 園内で神社に参拝

ホームレス巡回健康相談や更生保護施設訪問集団健康診断などを実施。今回は、更生保護施設の入所者への健康診断事業や無料低額診療事業を利用した受診受療支援などの取り組みが評価されました。

当該職員は「社会福祉事業は当院の使命。今後も継続してこの事業を続けていきたい」とコメントしました。

(済生記者 雷永朋実)



地域貢献活動「みんなの居場所まんなかテラス」の利用者さんが心を込めて作成した「真中神社」が完成しました。1月7日に当園で完成イベントが行なわれ、まんなかテラス利用者6

人とボランティア2人が参拝に訪れました。この神社は、入居者の方々が外出せずに安心して参拝できるようにとの思いから、当園の中に建てられました。完成イベントでは参拝のほか、おみくじや記念撮影も行なわれました。「立派な神社ができたね」と驚きの声をあげる人もいれば「何が出るかな」とおみくじに期待する人もいて、会場はにぎわいを見せました。

この神社は当園の新年会でも活躍し、入居者の皆さんも大変喜んでいました。

(済生記者 布施優子)

〈大阪〉 吹田病院 医療従事者の仕事を知る

12月4〜6日、吹田市立第一中学校の生徒が当院で職業体験学習を行いました。11月に受け入れた第五中学校からの参加は4人でしたが、今回は19人と大人数。4グループに分かれて学習しました。

初日はBLS講習を受け、薬剤科と臨床検査科を見学。2日目は各病棟やリハビリテーション科、放射線科を回り、救急



車を見学。岡上武名誉院長による講演もありました。最終日は連携施設である特養松風園へ。レクリエーションに

参加し、入居者さんへのケアサービスを学びました。また、感染管理認定看護師・大田良美主任による座学講習に加え、正しい手洗いの仕方を実践しました。後日届いた生徒からのお礼のメッセージには、医師だけでなくさまざまな専門職が連携して患者さんに対応している姿に驚いたという声が多くありました。

(総務課 瀧田紘子)



年頭挨拶で決意新たに

〔埼玉〕川口総合病院

1月6日、佐藤雅彦病院長や副院長をはじめとする管理職一同が職員へ年頭の挨拶を行いました。

佐藤病院長は「今年の冬休みは9連休という話題がテレビでも取り上げられていましたが、年末年始も病棟や救急で患者さんの対応に尽力いただいた職員の方々に心から感謝申し上げます。本年も患者さんを中心とした質の高い医療を提供し、地域・社会に貢献していきましょう」と、職員への感謝の意と病院理念を改めて共有。皆の気持ち



ちが一つになった素晴らしいスタートとなりました。

午後には、佐藤病院長、高橋郁子看護部長、清水吉則事務部長の三役が、地域に根ざす川口神社で初詣を行ない、「医療安全」の祈願を捧げました。

〔済生記者 原 衣里奈〕

季節感じる院内デイケア

〔神奈川〕若草病院

当院では、入院患者さんがほんの数時間でもベッドを離れ、穏やかなひとときを過ごしていただくために、看護師や介護福祉士が企画したさまざまな行事や催しもの（体操、ゲーム、貼り絵、工作など）を行なっています。当院ではこの活動を「院内デイケア」と呼んでいます。

10月17日には、季節を感じていただくために秋祭りを行ない、入院患者さん12人と職員11人が参加。病院の一室ではありますが、地元町内会から借りた法被を着て、研修医にも協力してもらいピアノの連弾の生演奏を聞きながら、歌ったり、可能な範囲で踊ったりしました。

5年ぶりの忘年会  
職員同士の交流深まる

12月20日、職員共済会主催の忘年会を開催し、208人の職員が参加しました。

コロナ禍により開催は5年ぶりで、今回は職員間の交流を目的に立食形式で実施。今まであまり交流がなかった職員同士がこの機会に新たなつながりを築

〔三重〕明和病院

への橋渡しができれば幸いです。

〔済生記者 長澤伸哉〕



くことができました。

また、大抽選会では1000個を超える景品が用意され、三重県済生会・諸岡芳人支部長からのデイズニーペアチケット、清掃委託業者さんからのお米5キロ三つ、会場の華王殿さんからのアフタヌーンティーペア招待券など、豪華な景品に会場は沸き立ちました。

参加者からは「久しぶりの参加ですごく楽しかった」「ゆっくり話ができ今まで以上に交流ができた」「他部署や他施設の方々とつながりを深めることができた」といった声が上がりました。

〔済生記者 藤岡拓人〕



最近、  
将来に備えて  
貯金し始めたの

えっ……？  
買い物好きの  
あの子まで……

もしかして……  
ノープランなの、  
あたしだけ!?

人生に必要な「お金」を  
FPが教えます!

済生会グループ保険

ライフプランニング  
体験会

WHAT'S LIFE PLANNING?  
あなたの人生にこれから必要となるお金と、そのお金をどのように準備すればいいかを専門家(FP)のアドバイスをもとにまとめ上げるものです。あなたの夢を実現するためのプランと一緒に作りましょう!

お申込みは  
こちらから





## LINEスタンプ第2弾! キャラクターで病院PR

### 新潟病院

12月13日に当院の院長ら経営管理層をモチーフにしたキャラクターのLINEスタンプ第2弾をリリースしました。今回は副院長の「しおちゃん」も登場。これ

は一区切りに過ぎません。今後も皆さんの安全と安心を第一に、防火思想をさらに深め、施設の

**餅つき大会で一年の締め**  
12月26日、餅つき大会を行いました。体調を崩す利用者さんが増えていて無事に開催できるか不安でしたが、当日は臨時利用の方含め35人が参加し、とてもにぎやかな雰囲気になりました。

安全管理に全力で取り組みます。  
(済生記者 川端 誠・川瀬義博)

で全6キャラクターが出そろいました。制作したスタンプは使いやすい、かわいいデザインに仕上がっています。  
キャラクターたちは患者さんから徐々に人気になっています。また、11月に出席した福祉・介護・健康イベントでも子どもたちから「かわいい!」の声や、地域の皆さんから「グッズの発売はありますか」という問い合わせを受けるなど好評を博しました。これからもキャラクターを活用して当院を積極的にPRしていきます。  
(総務課 吉川未織)



### 〈大阪〉泉尾特養第二大正園 いい年越しができてよ

12月27日、年末恒例の餅つき大会が各フロアで開催されました。3階と4階で行なわれ、職員26人と利用者さん120人が参加しました。

杵で餅をつくたびに「よいしょー! よいしょー!」という利用者さんたちの元気な掛け声がデイルームに響き渡り、笑顔と笑い声が絶えない一日となりました。ついたお餅は鏡餅にしてフロアに飾っています。

餅つき後は皆さんに温かいおしるこを提供。利用者さんからは「これでもいい年越しができてよやね」といった声が聞かれました。

年末の風物詩を皆で満喫し、心温まるひとときを過ごすことができました。  
(済生記者 黒木洋輔)

### 〈神奈川〉横浜市東部病院 「顔の見える連携」を強化

11月14日、第8回連携登録医の会を横浜ベイシエラトンホテル& Towers 5階「日輪」で開催し、132の医療機関から

221人が参加しました。本会は当院と連携登録医の先生方との「お互いに顔の見える連携」を深める目的で行なってきました。

当日は当院の各診療科・部門の医師が体制や診療についての紹介を行なったほか、医師同士が顔を合わせて話す機会となり、盛況のうちに終了しました。参加者からは「直接話すことができ有意義だった」「盛大な会で良かった」といった感想が寄せられました。  
(済生記者 荒木愛美)



### 長崎福祉センター 長崎市消防表彰式で 当センターが長崎市長賞

新年早々の1月7日、長崎市消防局が毎年行なっている自衛消防隊の表彰式において、当センターが長崎市長賞を受賞しました。防火思想の普及と施設内の防火管理に取り組み、市の消防行政の発展に寄与したことが評価されたものです。

同日、出島メッセ長崎で執り行なわれた表彰式に寺崎和弘セ



ンター長が代表として出席し、賞状を受け取りました。  
この受賞は当センター全体の努力の結晶であり、職員一同うれしく思います。しかし、これ



とで、この日のおやつは「お餅」……ではなく「白玉だんご」のおしるこ。出来上がったお餅は鏡餅にする予定です。  
2024年の行事は餅つきをもってすべて終了。2025年も利用者さんに楽しんでもらえるイベント(行事)を計画していきたいと思えます。コロナも落ち着いてきたので夏まつりの復活も……。  
(済生記者 伝法俊和)



最近では自宅で餅つきをする機会がなく、職員もそのほとんどが未経験。うまくお餅になるかちょっと心配でしたが、せっかくなので利用者の皆さんにも餅つきに参加していただきました。というこ

〈大阪〉中津医療福祉センター  
世代を超えた70人で  
新春餅つき大会

1月9日、大淀南医療福祉総合施設1階ホワイエで、大阪乳児院、特養喜久寿苑、中津看護専門学校、大阪北リハビリテーション病院合同の餅つき大会を開催し、職員、特養入居者、入所児童、看護学生合わせて約70人が参加しました。



杵で餅をつくたびに幼児から高齢の方まで「よいしょ」の掛け声をあげ、大会を盛り上げてくれました。声だけでは物足らず「昔とった杵柄」とばかりに、職員と餅をつく特養入居者さんもいました。新年を祝うイベントで世代を超えて楽しいひとときを過ご



杵で餅をつくたびに幼児から

過ごすことができました。

〈大淀南医療福祉総合施設  
事務部長 中上哲也〉

〈熊本〉済生会グループホーム  
事業所  
グループホームでの  
医療面のサポートを充実

当事業所では、障害がある利用者の皆さんの高齢化に伴い、医療面のサポートをする機会が増えてきました。そのため看護師を少しずつ増員し、2024年度からは4人体制になりました



感染対策のガウン着脱研修も実施

た。

筆者は看護師として主にホームからの受診介助や内服管理、医療・衛生面の相談などを担当。受診介助は月に70件前後で、あらかじめ生活状況を把握し主治医・スタッフと連携して対応することで、障害があっても無理なく医療を受けることができるようになりました。こうした積み重ねにより利用者の皆さんの信頼関係が醸成されることで、健康面での些細な不安を利用者さんが訴えやすくなり、疾病の早期発見にもつながります。

また、流行性疾患の対応や処置の手法の取得などについて職員研修を行ない、さらなる支援の充実に努めています。

〈看護師 西 克美〉

〈三重〉明和病院

「わくわくジャム」で  
地域の活動を盛り上げる

12月15日に行なわれた「みえ松阪マラソン2024」で健康応援ブースを出展した際に、地域社会への積極的な貢献とソーシャルインクルージョン推進のため、同じ明和町で活動する「社会福祉法人伊勢亀鈴会第2



南勢就労支援センター」の取り組みを紹介しました。



同センターは、2013年に就労継続支援B型事業所として開設。自産自消型の事業として「わくわくジャム」の製造販売を行なっています。その手作りでの品質の良さから、現在では伊勢志摩の老舗旅館やラグジュアリーホテル、多気町の大型商業リゾート施設などで使用されています。

ブースでは同センターの活動紹介とともにジャムの試食も実施。美味しさを通じて地域の福祉事業とのつながりを感じていただける、価値ある一日となりました。(済生記者 藤岡拓人)

〈滋賀〉守山市民病院

誤嚥性肺炎を防ぐために  
今日からできること

12月9日、地域住民に向けた公開講座「誤嚥性肺炎にならないために今日からできること」を当院くすの木ホールで開催し、31人の方が参加しました。はじめにリハビリテーション科部長の布施郁子医師が講義を



行ない、誤嚥性肺炎がなぜ、どのように起こるかを説明。続いて、田村真名美言語聴覚士が嚥下機能を鍛えるトレーニングを紹介・実演し、最後はグループに分かれて意見交換を行ないました。

参加者の口コミから嚥下の出前講座にも複数の問い合わせがあり、皆さんの関心の高さと情報発信の重要性を改めて感じました。

〈済生記者 中嶋元香〉

東神奈川リハビリテーション  
病院  
寄贈品を直接お届け

11月14日に災害備蓄食料(賞味期限の迫るコーンポタージュ300缶)の寄贈活動を行ないました。医事課・医療相談室・栄養科のメンバーが中心となり、区役所や社会福祉協議会が相談を受けた生活困窮者世帯や障害者活動施設、保育園など合計8カ所へ寄贈することができました。

2023年9月はフードバンクに寄贈しましたが、今回は備蓄食料の種類や数が限られていたことと、賞味期限まで時間がなかったこともあり、希望施設に直接寄贈品をお届けしました。寄贈した施設からは「とても助かる」「ありがとうございます」など感謝の言葉もいただきました。

〈医事課 濱崎啓師〉

診療放射線技師のための静脈路確保研修

〈山口〉下関総合病院

当院では、核医学検査（R1：PET）における放射性医薬品投与・静脈穿刺は放射線科医師が、CT・MRI検査等の造影剤投与のための静脈路確保は看護師が行なっています。タスクシフト・シェアを推進するため、12月3日、診療放射線技師を対象に静脈路確保の研修会を開催しました。

当日は17人が参加。看護部臨床実践能力向上委員が講師となり、根拠やポイントを説明した後、血管モデルを使用して実習



を行ないました。実習では講師の豊富な経験も踏まえた説明もあり、臨床に即した内容となりました。

研修後はすぐに診療放射線技師が放射性医薬品投与を静脈路確保から単独で行なえることを目標に取り組んでおり、徐々にその範囲を広げていく予定です。  
（副看護部長 首藤悦子）

音楽の力で心を癒やす  
〈埼玉〉鴻巣病院

12月19日に、当院新館講堂で「ボランティアコンサート」を開催しました。このコンサート



は、入院患者さんに楽しんでいただくことを目的とした年末恒例のイベントです。

今回はキーボードデュオのマチエリイさんが出演し、素晴らしいアンサンブルが繰り広げられました。クリスマス曲からジャズ、さらには「マツケンサンバ」や童謡まで、幅広いジャンルの楽曲が披露され、参加者の皆さんから大変好評でした。楽しそうに歌ったり、演奏に聴き入ったりする参加者の方々の姿からは、音楽の力で心が癒やされる様子がうかがえました。その温かな雰囲気はスタッフ一同、大きな達成感と喜びを感じることができました。  
（支援部作業療法科 鈴木梨沙）

岡山済生会総合病院  
ホスピタリティ賞で  
思いやりあふれる病院に

11月26日、第1回ベストホスピタリティ賞授賞式と第4回ホスピタリティ賞授賞式を行ないました。  
ホスピタリティ賞は2023



年度にスタート。病院目標である「働きがいと誇りを持つ組織づくり」の実現のため、病院の理念に沿った行動（思いやり、優しさ、信頼）を実践し活躍する職員を、上司や同僚の推薦により表彰する制度です。

今回は4人がホスピタリティ賞に選ばれ、前年度の全3回の受賞者の中から第1回ベストホ



鮭の遡上に大興奮  
〈新潟〉なでしこ青空保育園

12月1日に5歳児18人が、三条市の五十嵐川で鮭の遡上を見学しました。

見学当日、子どもたちは水面に時折現れる鮭を見つけると、

スピタリティ賞として総務課の孫頼悟さんとMA室の佐藤美鈴さんが選ばれました。孫さんは通訳として業務の枠を超えた思いやりあふれる行動を、佐藤さんは外来患者さんへの声かけや多職種との密な連携を評価されました。  
（済生記者 高畑貴子）

思わず「頑張れ！」と声を上げていました。五十嵐川で生まれた鮭は大海で成長し、再びふるさとの川に戻ってきます。流れに逆らい、必死に泳ぐ姿は見る者の心を打ちます。

さらに、投縄で鮭を捕る様子も見せてもらい、大興奮の子どもたち。雄と雌の見分け方を教えてもらったり、捕れた鮭を触る体験をしたりしました。「怖い」「重たい」「ヌルヌルする！」と話す子もいれば、鮭の匂いに「鼻が曲がる！」と言う子もいました。

保育園に帰ると、鮭の遡上が印象深かったのか、五十嵐川を上る鮭の絵を描く子どもたちの姿が見られました。  
（済生記者 桜井麻希）

餅つきで1年の厄落とし  
〈静岡〉特養小鷹なでしこ苑

12月27日に餅つきを行ないました。今回は普段お世話になっている地域の方にお餅を振る舞うために午前の部も開催。入居者さんが参加する午後の部との2部構成で行ないました。

午前の部は近隣住民など16人が集まり、参加した子どもたち



も笑顔で餅つきを楽しみました。約85人の入居者さんが参加した午後の部では、「餅つき職人」に扮した職員を筆頭に各プロックを回り、パフォーマンスを披露しました。

入居者さんが餅をつく時間では、「私はいよいよ」と消極的だった方がいざ杵を持つと「よしよし」と大きな掛け声とともに楽しそうにしている姿が見られました。「昔はつく方じゃなくて返す方をよくやったよ」と話す入居者さんも。2024年の厄を落とし、2025年も健やかに過ごしていけることでしょう。

（済生記者 石田遼祐）



なでしこ  
ファーム



熊本、松山から「愛」をお届けします!

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」  
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」  
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

### 焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。  
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが店舗し、済生会のホームページ上で営業中です。  
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。  
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ) ◆ギフトボックス (クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ) ◆くまドレーズ (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ) ◆元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!  
<https://www.saiseikai.or.jp>

ホームページには、他にも魅力いっぱい商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



## 認定看護師 市民講座



### 認定看護師が 病院ロビーで市民講座

認定看護師による市民講座を12月10日に開催しました。当院1階ロビーにがん検診・治療に関する相談ブース、脳卒中や認知症予防に関する相談ブース、心肺蘇生ブース、さらにスキンケアと皮膚水分量測定チェック、正しい手洗い体験ブースを設け、各分野の認定看護師が対応しました。

〈大阪〉野江病院

見直すきっかけになった」「救急の体験ができてよかった」などたくさん感想をいただきました。

今回も区役所の協力を得て広報活動を実施。遠方から来場する方もいました。参加者からは「がん関連の新しい情報が欲しい」「応急手当の仕方などもあると良い」などの要望もあり、今後も健康に役立つ情報を伝えていきたいと思えます。

(HCU 病棟副看護師長・救急看護認定看護師 佐藤友治)



### 介護予防・健康増進と 地域の交流の場に

12月19日に桜井市立中央公民館で「健康カフェ」を実施しました。コロナ禍で停滞した交流の場の再開と、閉じこもりによるフレイルへの対策として昨年度から実施し、今回で5回目となります。

地域の関係機関に運営の協力をいただき、体力測定や口腔・栄養チェック、医療・健康相談などの各種ブースと手作りサロン、ミニセミナーを実施。当日

は今季一番の冷え込みでしたが、40人を超す地域住民が来場し、大変にぎやかなイベントとなりました。

参加者からは「楽しかったです」「毎回やっていただいていたので安心します」などの感想がありました。

広く地域の方の介護予防・健康増進につながる取り組みとして、今後も定期的の実施していきたいと思えます。

(管理者 土屋千南美)



〔三重〕 松阪総合病院  
災害を想定した訓練で  
南海トラフ地震に備える

11月16日、南海トラフ地震(震度6強)が発生したという想定で病院災害訓練を実施し、職員150人が参加しました。  
今年度はオンラインビデオ会議ツール「Zoom」を使用して災害対策本部の立ち上げ訓練の様子に参加者にライブ配信筆者の同時解説付きで、災害対策本部の役割や情報収集作業さらには災害対策本部の方針決定まで、一連の流れを映像とスライドで説明しました。



訓練終了後、災害対策本部長の清水敦哉病院長は「参加者全員で有益な訓練ができた。また、災害発生時には情報をいかに

いざというときに  
一人でも対応できるように

院内の職員を対象とした災害BLS研修を12月16日に開催しました。この研修は看護部災害対策委員会のBLS小チームが主催するもので、災害基礎知識の習得と、小児・成人の一次救命処置ができることを目的としています。

当日は検査科、地域医療支援(PFM)センター、院内保育園から計5人が参加。スライドによる講義の後、指導を受けながら人形を使って実技を行いました。



「初めて実際にAEDに触れて学べたので、今後には生かしていきたい」「実際に行なってみて効果的な心臓マッサージを長時間することの難しさを感じた」といった声がありました。

(済生記者 西田千鶴)

確に収集するかが一番重要であると再認識できた」との感想を述べました。

(副院長 近藤昭信)

福井県済生会病院

3カ年ビジョン策定へ  
未来のありたい姿を考える

1月11日、当院の新3カ年ビジョン策定のための「ビジョンデザインワークショップ2024」を行いました。



当日は各部門責任者やリーダー約50人に加え、今回初めて若手職員14人が参加。まずは

当院を取り巻く環境や今後の外部環境の変化について講義。先の読めない時代、バックキャストイングとフォアキャストイングの視点を持つて戦略を立てることの重要性も説明しました。その後、当院が2040年にありたい姿について話し合い、グループに分かれて3カ年ビジョンの案を作成しました。

参加者からは「さまざまな年代や役割の職員から意見を聞くことは今後の病院経営にプラスになる」などの声があがりました。

今回話し合われた内容をもと

に、経営幹部でさらに検討し、年度末には新3カ年ビジョンを発表する予定です。  
(総務・企画課 主任 丹尾菜摘)

〔東京〕 中央病院  
東京DMAT指定証を授与

12月27日、東京都保健医療局医療政策部・災害医療担当部長が来院し、東京DMAT(災害派遣医療チーム)の指定証が海老原全院長へ授与されました。東京DMATは、大震災や大規模交通事故などの都市型災害現場で、消防隊と連携し多数の傷病者に対して救命処置を行う医療チームです。

主な活動内容は、都内での局



〔山口〕 豊浦病院

〔栃木〕 特養とちの木荘  
活気あふれる餅つき

12月27日、当施設内で年の瀬の風物詩である餅つきと鏡餅作りを行いました。入居者さんにも「甘くて美味しい。上出来だ」との声が聞かれ、一斉に入居者さんが笑顔になりました。



その後、入居者さんと職員が息の合った餅つきを披露。入居者さんからはご自身の経験を踏まえたアドバイスや声援が絶えず飛び交い、大いに盛り上がり

ました。

参加した入居者さんの中には「毎年、近所や親戚の分まで餅つきをしていた。あの頃が懐かしい」と追想する方も。鏡餅作りでも、入居者さんの思い出話は途切れることがなく、戦後の苦労や生活の知恵など、貴重な話を聞かせてもらいながら立派な鏡餅が出来上がりました。

(済生記者 川上藍美)



〔福井〕 特養聖和園  
厨房改修工事中でも  
「お楽しみおやつ会」

11月6・7・13・20日に、特養・デイサービス・ショートステイの各棟のホールで「お楽しみおやつ会」を実施しました。このイベントは、厨房改修工事期間中でも利用者さんに笑顔をお届けたいとの思いから、栄養管理グループが企画したものです。常食や軟菜食にはマロンケーキやイチゴロールケーキ、クレ



ープを使用し、ホイップクリームやみかん、りんごを添え、カレースプレーやソースで鮮やかに仕上げました。

一方、嚥下食では、すりおろしりんごやホイップをカップに盛り付け、プリンやトッピングを加えた華やかなデザートを提供しました。

利用者さんからは「見た目も味もとても良い」「食べるのが楽しみ」といった声が寄せられ、彩り豊かなおやつが心温まるひとときとなりました。

（済生記者 野尻 宗）

新潟病院

小学校で出前スクール  
看護師のお仕事体験

在宅医療・介護連携推進事業の一環で、11月21日、新潟市立山田小学校の6年生66人を対象に「出前スクール」を実施しま



した。

前半は当院入退院支援室・高澤彩子看護師長が、看護師の仕事の大変さ、やりがいや喜びについて講義を行いました。

後半は体験コーナー。看護師のユニホームに着替え、聴診器や妊婦体験、車椅子の操作など目をキラキラ輝かせながら取り組んでいる子どもたちの姿が印象的でした。

授業を実施した大人たちは、子どもたちのパワーに終始圧倒されっぱなし。日々の忙しさで忘れてかっていた初心に立ち返ることができ、そしてたくさん



済院中学校で、がん教育を目的に教育講演を行いました。参加した2年生7人はがんについての正しい知識を学び、がん患者への理解を深めました。



講演では、がんは2人に1人がなる時代であることや、遺伝子の病気であること、治療法の進展について説明されました。生徒たちは真剣に耳を傾け、終了後には「こげを食べたらがんになるのか?」といった質問や「おもしろかった」などの感想が寄せられました。教師からも「生徒たちにとって実りある講演だった」と好評でした。

森管理栄養士が日本栄養士会会長表彰

10月13日、全国栄養改善大会で2024年度公益社団法人日本栄養士会の表彰式が行なわれ、栄養科の森美和子管理栄養士が日本栄養士会会長表彰を受賞しました。

森さんは同会に入会し50年間にわたり、栄養改善に尽力した功績が認められ表彰されました。また、多くの患者さんの栄養管理や栄養食指導などを行ない、親しみやすく温かみのある人柄で患者さんからも大きな信頼を得ています。

森さんは「半世紀にわたり済生会と歩んでこられたのは、栄養科のスタッフをはじめ、チーム医療の中で先生方や多職種スタッフに支えられたからです」と受賞の喜びと感謝を述べました。

岡山済生会総合病院

（栄養科長 大原秋子）

お正月って楽しいな!

年末年始の休み明けの1月6日、各クラスでさまざまなお正月遊びを楽しみました。

0歳児12人はコマ回しを楽しみました。回るコマをじっと眺めたり、指先を使って自分で回そうとしてみたりと、それぞれ楽しんでいました。

福笑いとはコマ回しを行なったのは1歳児15人。紙皿で作ったコマにシールを貼り、かわいく装飾しま



した。完成したコマを上手に回すことができる大喜び。福笑いでは、顔のパーツの名前を保育者に聞きながら集中して取り組み、完成すると自慢気に見せてくれました。

2歳児19人は初めての羽根つきやけん玉に苦戦しながらも、上手にできるまで何度もトライしていました。羽根つきはラリーが何度も続いたり、けん玉がうまくカップに入ったりするととてもうれしそうでした。

（済生記者 齋藤里奈）



〔大阪〕中津病院  
看護部内定者交流会  
同期同士の絆を深める

2025年度入職予定の看護学生を対象に、12月7日に交流会を開催しました。病院の雰囲気を実際に感じてもらい、同期同士の交流を深めてもらうことを目的に企画したものです。



当日は68人が参加。近藤真理子看護部長の挨拶に続き、国試対策をテーマにしたグループワークや、グループ対抗レクリエーションを通して親交を深めてもらいました。その後はティールタイムを実施し、先輩看護師も参加しての質問タイムを設けました。最後に国家試験合格を祈願した「鉛筆」と「すべらんうどん」をプレゼントしました。

今後も皆さんが不安なく入職できるように、引き続きサポートしていきたいと思えます。  
(看護部 北棟8階病棟部長 井下紀子)

福岡総合病院  
医療DXの研修対象に

12月18日、日本医業経営コンサルタント協会の国内視察研修が当院で開催され、経営コンサルタントを中心とした約30人の協会会員が来院しました。研修テーマは「DX」ということで、当院DX戦略チームリーダーの新田怜さん(経営企画課)とサブリーダーの島添敦



さん(情報システム室)が講師を務めました。講義では、当院のこれまでの取り組みを紹介するとともに、組織的に病院DXを進めるためのフレームワークや今後の展望などについて話しました。後半は院内視察を実施。現場の看護師が「AI問診」の説明をし、タブレット端末を活用した診療科の「各種説明動画」を体験していただきました。研修後には参加者から「とても参考になった」「貴重な学びの機会となった」との感謝の言葉がありました。  
(済生記者 富永朋美)

長崎病院  
新年の挑戦と成長を誓う

衛藤正雄院長の「年頭所感」が1月6日午前8時半に行なわれ、職員約50人が参加しました。毎年一年の始まりに改めて目標と志向を確認し、その実現に向けて新たな気持ちで日々の業務に取り組む機会となっています。衛藤院長は所感の中で「巳年の巳は「復活と再生」の象徴とされています。また、巳は「お金が身につく」「努力が実る」

〔神奈川〕横浜市東部病院  
最新手術支援ロボットの  
講演会と体験会

10月31日、当院で連携登録医向けにダビンチSP導入記念講演会・操作体験会を開催しました。講演会には21人の医師が参加し、そのうち12人が体験会



にも参加しました。当院は10月から手術支援ロボット「ダビンチ」の最新機種であるSPを導入。全国では9施設目です。これで当施設の手術支援ロボットは3台体制となりました。講演会では三角隆彦院長による挨拶の後、泌尿器科、外科、婦人科、呼吸器外科の部長がそれぞれロボット支援手術の取り組みとダビンチSPを用いた手術の展望について説明。会場からの質問にも対応しました。体験会では参加者が実機を操作したり、当院医師から説明を聞いたりして、なかなか間近で見ることのない機器に関心を寄

小倉さんの透き通るような歌声が会場を包み込み、「ふるさとの四季」メドレーや「瀬戸の花嫁」など、懐かしさあふれる曲が披露されました。

〔大阪〕泉尾特養第二大正園  
美しい歌声にうっとり

12月20日、ソプラノ歌手の小倉篤子さんとピアノ演奏者の寄藤佳織さんを迎えて、地域交流センターで訪問コンサートを開催しました。3・4階の利用者さん30人がウキウキしながら参加しました。



特にクリスマスメドレーでは会場が一体となり、心温まるひとときを共有することができました。参加した利用者さんからは「素晴らしい歌声に感動した」といった声が多く寄せられ、良き一日となりました。  
(済生記者 黒木洋輔)



# topics

## 急性期から在宅へ シームレスケアを目指す

〈大阪〉吹田病院

12月12日に「在宅をとにも考える会」を開催し、90人が参加しました。今回はリハビリテーション科の上村友紀作業療法士と小西佑弥理学療法士の講演会と、病院側と在宅側のセラピス



負けん気は必要ですね。施設としてもリベンジできるように後押しをしたいと思います。  
(済生記者 佐藤 聡)



トによるディスカッションを通じてシームレスケアについて考えました。  
ディスカッションでは、シームレスに急性期から在宅へとリハビリを進めて行く際に、患者さん自身のリハビリに対するモチベーションをいかに維持していくかが課題にありました。ここで鍵となるのは、患者さん自身が退院後にやりたいことや希望を目に見える形で目標設定することです。

当院は急性期病院として、入院中に多職種で退院後の患者さんのやりたいことや希望を確認し、在宅へつないでいくことが求められます。この課題について



11月19日、幼児クラスの3歳児3人が担当保育者と一緒に近くの神社に七五三のお参りへ出掛け、健やかな成長を願いました。  
一人ひとりが保育者から参拝の方法を教わり、手をたたいたお辞儀をしたりと、真剣な表情で参拝しました。また、3人で頭を寄せ合い、少し開いた拝殿の扉から「何があるの?」と中をのぞく姿は大変微笑ましい

当日は、寄付でいただいた衣装を着て参拝した子どもたち。特別な一日をさらに特別なものにしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。  
(済生記者 大貫典子)



光景でした。

一人ずつの記念撮影では皆緊張の面持ちでしたが、3人で並ぶとポーズを取ったりおどけてみたりと、普段通りの様子を見せていました。

## 着物姿で七五三の参拝

〈埼玉〉川口乳児院

では今後も継続して考えていきたいと思えます。  
(ホームケア支援課 主任 加藤尚子)

## 新看護部長が語る看護観

〈埼玉〉川口総合病院

16年間にわたり看護部長を務めた名古屋恵子副院長が令和6年12月31日をもって退任し、令和7年1月1日から高橋郁子看護部長がその後任を務めます。  
高橋看護部長に「大切にしていく看護」について聞いたところ、次のように話してくれました。



「病棟で師長をしていた頃、看護師が患者さんと楽しそうに話す笑顔を見て『笑顔があふれる環境が患者さんを元気にする』と実感しました。看護師はその環境をつくる最前線にいます。看護師の皆さんには、患者さんと過ごす時間を大切にしてほしいと願っています。」  
さらに「私を元気にしてくれ

## 杉浦薬劑師に 学校保健功労者表彰

静岡済生会療育センター令和

るものはパンダ、富士山、東京タワー。見るだけでテンションが上がります」と笑顔で話してくれました。  
(済生記者 原 衣里奈)



静岡県学校保健会主催の第63回静岡県学校保健研究大会で、当施設の薬劑師・杉浦嘉彦さんが学校保健功労者表彰を受賞しました。  
この表彰は、学校保健の向上・発展のために永年にわたりその職務に専念し、その功績が顕著な学校医、学校歯科医、学校薬剤師に贈られます。  
杉浦さんは、平成15年から当施設に隣接する県立静岡南部特

別支援学校に学校薬剤師として勤務。長年にわたり児童生徒の保健衛生と体位向上のために献身的に努力し、地域社会の保健思想の高揚に尽くした功績が認められ、表彰状と記念品が授与されました。  
(済生記者 大須賀彩音)

## 次こそは……リベンジ誓う

〈広島〉老健はまな荘

各事業所の自衛消防隊が初期消火の技術を競う「第56回自衛消防隊消防競技大会」が10月31日に広島市佐伯区西風新都訓練場で開催されました。広島病院特養たかね荘、当施設から各1チームが参加し、日頃の訓練の成果を披露しました。  
当施設は今回新チームを編成し、消火器男女の部に新宅佑一さん・箕岡桃子さんの介護福祉士ペアが出場。タイムは出場38チームで上位に入る好タイムでしたが、白線から足が出たことにより惜しくも入賞を逃しました。  
大会から戻った箕岡さんは開口一番、「リベンジしたいので来年も是非参加させてください」。仕事上でもこれくらいの

〈愛媛〉松山特養  
立派なブリを食べて  
元気な一年に

12月21日、愛媛県魚類養殖協  
議会から「久良のぶり」4匹を  
寄贈していただきました。  
久良漁協の養殖漁場は愛媛県  
の最南端に位置し、宇和海と太  
平洋の境にあります。冬季でも



水温が16度程度までしか下がら  
ず、漁協のホームページで、ブ  
リの生産環境として「日本一の  
漁場」と紹介しています。

「久良のぶり」の一番の特徴は  
その大きさです。ブリの重さは  
1匹約6キロ。入居者さんはブ  
リを抱きかかえると「ずっしり  
重たいね」「この立派なブリを  
食べて、来年も頑張るぞ！」と  
声をあげていました。  
地場産品にパワーをいただき、  
2025年もすてきな年にし  
ていきたいと思っています。

（事務 夏井理恵）

〈三重〉明和病院

ケアマネ交流会で  
地域の困りごとを共有

当院主催の「第1回ケアマネ  
ジャー交流会」を開催しました。  
この会の目的は、地域のケアマ  
ネジャーの皆さんと顔の見える  
関係を構築し、今後のさらなる  
連携強化を目指すことです。

当日は「医療と介護の連携で  
の困りごと」や「ケアマネジャ  
ーとして明和病院に求めるこ  
と」をテーマに、活発な意見交  
換が行われました。  
第1回の開催ながら外部から



24人、当院から18人の合計42人  
もの参加がありました。参加者  
からは具体的な困りごとや要望  
が出され、その解決のための連  
携の可能性について考える良い  
機会となりました。

（済生記者 藤岡拓人）

大分県地域生活定着支援  
センター

支援対象者との  
地域共生を目指して

12月7日、大分県・大分県社  
会福祉協議会との共催でセミナ  
ーを開催しました。本セミナー  
は、当センターの支援対象者（刑



余者等）について一層の理解を  
深めるため、年1回開催してい  
ます。  
本年度のテーマは「知的障  
がい者の一歩を切り拓く」地域で  
の共生を目指して」。国立重  
度知的障害者総合施設のぞみの  
園による講演に続いて、大分県  
の身体・知的障害相談支援課担  
当者が事業説明を行いました。  
会場とオンライン合わせて約  
120人が参加。「虐待などの  
経験が、非行や犯罪行為につな  
がるきっかけになる場合がある  
ことを理解できた」「行動をア  
セスメントすることの大切さを  
知った」など好評でした。

（相談員 杉尾美知果）



お世話になった病院に  
バイオリンで恩返し

静岡済生会総合病院

12月24日、  
院内のプレイ  
ルームで静岡  
雙葉高等学校  
2年の加藤瑛  
さんと友人の  
柴田沙耶さん  
が企画したバ  
イオリンコン  
サートが開催  
されました。  
加藤さんは  
小学5年生の  
時に当院に長期入院したことが  
あり、お世話になった病院スタ  
ッフや、かつての自分と同じよ  
うに入院する子どもたちに少  
しでもクリスマスを楽しんでも  
らいたいとの思いで今回のコン  
サートを企画しました。  
当日は20人ほどが来場。山の  
音楽家、きらきら星、クリスマ  
スメドレーなど9曲が披露され、  
プレイルームは素敵な音色に包  
まれ、観客から「感動した」と  
の感想がありました。

終演後、加藤さんは「これか  
らも病院や入院する子どもたち  
のために、バイオリンの演奏に  
限らず活動を続けていきたい」  
と話しました。

（済生記者 酒井あい）

事務スタッフの  
服装が変わりました

事務スタッフの服装について  
規程を見直し、1月から運用を  
開始しました。

働き方改革、多様性の尊重、  
コスト削減が主な目的です。一  
部の職種を除  
き、女性の制  
服を廃止。男  
性のスーツの  
基準も緩和さ  
れ、ポロシャ  
ツやタートル  
ネックのセー  
ター、スニー  
カーの着用が  
可能に。クー  
ルビズやウオ  
ームビズにも  
対応できるよ  
うになりました。  
体温温度  
には個人差が  
ありますが服  
装で調整がで  
き、適切な室  
温を維持する  
ことで地球温  
暖化対策にも



つながります。  
スタッフからも「気候に合わ  
せた重ね着や動きやすい服装が  
できるのでうれしい」と好評で  
す。制服着用のスタッフからも  
「雰囲気が変わりましたね」と  
声をかけてもらうことが増えま  
した。

（済生記者 船橋麻紀）

〔茨城〕水戸済生会総合病院  
特定行為研修修了者の  
活動を周知

当院には40人を超える看護師の特定行為研修修了者が在籍し、それぞれが役割を持って活動しています。



主に研修の企画運営を行なう研修班、プログラムの発信や発表会を企画する広報班、発熱外来の対応や病棟でのエコー下静脈路確保等の横断的活動を行なうPHS班、病棟での活動を円滑にする部署活動推進班の四つの班に分かれています。

今年度は修了者の活動周知のため、9・10月に活動報告会、11月に症例発表会を開催しました。報告会は会場が満席になり、関心

の高さがうかがえました。参加者からは「参加する前は修了者かどのような活動をしているか分からなかったが、参加したことで具体的な活動が分かった」「報告を聞くことで活動に興味を持った」という感想がありました。

〔3南病棟看護師 柏 奈津美〕

〔福岡〕飯塚嘉穂病院  
ホスピスって  
どんなところ？

1月11日、飯塚医師会館・講堂で西日本新聞市民医療講座が開催され、当院の亀山敏文緩和ケア科主任部長が「緩和ケア病棟（ホスピス）って、どんなところ？」と題し、講演を行いました。

約40人の市民が参加した講演では、亀山主任部長が緩和ケアの歴史や定義、当院の緩和ケア病棟の紹介など幅広く説明。福岡県には全国平均の約3・5倍の緩和ケア病床があるが、それでもまだ不足しており、今後も緩和ケア病棟が必要になってくるとい話をしました。

参加者からも多数の質問がされ、緩和ケアに対する関心の高



さうかがえました。  
〔経営企画室長 春口勇介〕

香川県済生会病院  
プロバスケット会場  
肝炎啓発イベント

11月30日、男子プロバスケットボールBリーグ・香川ファイアアローズのホームゲームに合わせて、肝炎啓発イベント「知って、肝炎プロジェクト」が高松市総合体育館で行なわれ、当院も参加しました。

当日は、薬剤師のお薬分包装や歯ブラシデコレーションのブースを設置。ファミリー層を中心に100人以上が来場し、健康増進について楽しみながら



学んでいました。また、済生丸のパフレットや当院が実施中のクラウドファンディングの啓発用グッズも配布しました。

参加者からは「薬剤師のお仕事体験ができて楽しい」などの声があり、大変好評でした。

さらには、肝炎のスペシャリストサポーターとしてEXILEの松本利夫さんも来場。イベントは大盛り上がりで、当日の試合も地元ファイアローズの勝利に終わりました。

〔済生記者 長尾美甫〕



〔新潟〕特養長和園  
利用者さんと園児の  
交流の場

12月6日、なでしこ青空保育園の年長児18人が当園に来て「和太鼓・遊戯発表会」を行いました。

当日は園児たちが力いっぱい太鼓をたたき、ダンスを踊り、歌を歌う熱気に会場が包まれました。職員のギター演奏に合わせて園児が歌い出すと、会場全体が一つに。利用者の皆さんは

体でリズムを取ったり、手拍子をしたり、鈴を鳴らしたりして一緒に楽しんでいました。

利用者さんから「かわいいね」「上手だね」などの声が上がると、園児たちは一層元気にパフォーマンスを続け、大いに盛り上がりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、利用者さんと園児にとって、笑顔あふれる素敵な思い出となりました。

〔済生記者 布施優子〕

〔三重〕医療型障害児入所施設  
なでしこ  
地元のお店の協力で  
デザートフェア

11月14日に「なでしこデザートフェア」を開催しました。栄養委員会と家族会の共催で、デザート好きの利用者さんたちのために企画。利用者43人と家族29人の合計72人が参加しました。

例年デザートバイキングを行なっていました。今回は地元のお店に協力を依頼し、さまざまな種類のデザートを楽しめるように。また、医療的ケアを受けている利用者さんにも胃腸が



ら注入できる形態のデザートを提供し、全員が普段と違う味を堪能しました。

利用者さんが自ら手を伸ばしてデザートを楽しむ姿も見られ、家族の方々からは「コロナ



後、初の食事介助ができた」との喜びの声もありました。

今後は感染症対策を維持しつつ、利用者さんと家族と一緒にデザートを楽しめる機会を増やしていきたいと考えています。

〔主任 保育士 中西亜弥〕

# topics

病棟を巡る際は安全を考慮し、先導役の職員が獅子の誘導を担当。獅子役は視界が狭く中腰で暑さも感じられる中での苦勞もありましたが、それもまた一つの貴重な経験となりました。

さらに、1月8日の院長の新年挨拶の場でもサプライズで獅子舞を披露。院長の後ろから突然現れた獅子舞に、会場は大いに盛り上がりました。

(4階北病棟 介護福祉士 石井邦明)



者さんも多く見られたのが印象的でした。

グや段ボール、折り紙などを使い3日間かけて作り上げられたもの。訪問が始まると、病室は患者さんとご家族の驚きと笑顔があふれ、自ら頭を差し出す患



11月20日、当園会議室で「認知対応型通所介護わらびようデイサービスセンター」の運営推進会議を開催しました。この会議は、施設運営の透明性を保ち、地域との連携を強化することを目的に年2回実施されています。

当日は市職員、介護支援専門員、利用者さんのご家族など7人が参加。利用者さんの日々の活動やサービス内容をスライドショーで分かりやすく紹介し、具体的な事例報告を交えながら、

## 施設運営を見える化し 介護を地域全体で支える

〔福井〕特養聖和園



11月9日と12月15日に、当院で「メデイカルスタッフ体験セミナー」を開催しました。1回目は27人、2回目は29人の高校生が参加し、メデイカルスタッフ全8職種の業務を体験しまし

## 幅広い分野の医療業務をリアルに体験

熊本病院

(済生記者 野尻 宗)

取り組みや改善への姿勢を共有しました。

参加者からは「利用者目線で考えられたサービスが伝わる」「ここで預かってもらえて本当に良かった」といったうれしい感想が寄せられました。

こうした活動を通じて、介護を地域全体で支える意識を高めるとともに、より安心して利用できる施設づくりが進められています。



た。このセミナーは2014年に開始し、例年、募集開始と同時に定員が埋まるほどの人気となっております。

今回は、よりリアルな体験ができるよう参加者にスクラップを着用してもらいました。臨床工学技士は手術用ロボットの体験、薬剤師は調剤体験、診療放射線技師はCT・X線撮影体験など、多岐にわたる内容を実施しました。

参加者からは「自分が知らなかった職種を知り、将来の選択の幅が広がった」「学校のオープンキャンパスより楽しかった」といった声がありました。高校生にとって新たな発見の多い1日となったようです。

(人材開発室 津川恭代)

## どの1冊を選ぼうかな

長野保育園



12月4日、コープ共済から20冊もの絵本をいただきました。

これは、コープ共済などが企画する「みんなのよみかせ絵本大賞」に当園が参加を申し込み見事当選したから。子どもたちに20冊すべて読み聞かせをし、理由を添えて1票を投票することが参加条件です。

いただいた絵本は、おはけやお星さま、恐竜、大好きな食べ物のお話など、表紙を見ただけでワクワクするようなものばかり。子どもたちは皆大喜びでした。

当園として投票する絵本を1冊選ぶために毎日、子どもたちに読み聞かせをしたり、職員や



## 認知症の人と共に走り タスキをつなぐ

〔奈良〕御所病院

(済生記者 丸山 葵)

全国的な認知症啓発イベント「RUN伴」。12月7日に御所市アザレアホールで「RUN伴ごせ2024」が開催され、訪問看護ステーションあまねの稲葉看護師が参加しました。

RUN伴は、認知症の人や家族、医療・福祉関係者などがタスキをつなぎながらゴールを目指すイベントです。御所市では「いくつになっても、認知症になっても支え合い、暮らし続けられる町」の実現を啓発することを目的として開催されました。

稲葉さんは認知症の人と共に一歩一歩ゴールを目指し、無事次の走者へタスキをつなぐことができました。「次回もぜひ参加したい」と意気込みを見せて

## 手製の獅子舞で彩る 回復期病棟のお正月

〔神奈川〕湘南平塚病院

(済生記者 桑原侑希)

1月2〜3日に、手製の獅子舞が回復期リハビリテーション病棟の各病室を、サプライズで訪れました。

獅子舞はレクリエーション係の介護福祉士を中心に、ウィッ



左から稲葉さん、応援に駆けつけた看護部長と事務部長



@SAISEIKAI\_GOSE

〈鳥取〉 境港総合病院  
ストップ子ども虐待

11月9日、境港市の水木しげるロードで児童虐待防止啓発パレードが行なわれ、当院からは地域医療総合支援センターのソーシャルワーカーをはじめ計4人が参加しました。



同日イベントは、児童虐待防止推進月間である11月に市民へ児童虐待防止を広く呼び掛ける取り組みの一つです。  
JR 境港駅近くの河童の泉で実施された出発セレモニーでは、境港市要保護児童対策地域協議会の柏木香寿子会長から参加団体の代表者に「ストップ子ども虐待」と書かれたオレンジ色のたすきが授与され、当院は磯邊佳恵ソーシャルワーカーが受け取りました。  
その後、児童虐待防止の願いを込めた「オレンジリボン憲章」を参加者全員で唱和し、民生・児童委員や保育、教育、福祉、行政

関係者など約50人でパレードをしました。  
(済生記者 亀尾美子)

栗東トレンセンから  
寄贈と感謝状の授与

12月6日、日本中央競馬会栗東トレーニングセンターから、既舎関係者救護体制円滑化事業として既舎関係者の治療・リハビリに資する医療器具物品（人工呼吸器）の寄贈をいただきました。  
寄贈式では大迫三徳場長から三木恒治院長へ目録が手渡されました。2020年から継続して支援をいただいております。5年目となります。



また、2024年は日本中央競馬会が70周年を迎えた記念すべき年でもあり、長年にわたる当院が既舎関係者の治療の受け入れ先として大きな役割を果たしてきたことを評価され、感謝状の授与も行なわれました。  
(済生記者 有馬真由美)

滋賀県病院

〈福岡〉 飯塚嘉穂病院  
クリスマス・正月に向け  
フード&学用品を寄付

第7回フード&学用品ドライブ事業を12月1〜16日に実施しました。  
クリスマスやお正月など、イベントの多い冬休みに向けて食品と学用品を募集したところ、計353品が集まりました。集まった品々は12月20日、NPOフードバンク飯塚、フリースクールみんなのおうち、嘉麻市子育てリユースセンターに寄付しました。

今回、患者さんご家族からペンケースの寄付をいただき「ペンケースを寄付した先でも嬉しかったです」とお話ししたところ、数日後に再び多数のペンケースを寄付していただきました。心温まるご支援に感謝



しています。  
(地域医療連携室 社会福祉士係長 岡松佳央里)

CF大成功！ 内視鏡センター設立へ

広島病院

広島病院が2024年10月10日から実施していた「内視鏡センター設立に伴うクラウドファンディング」が12月12日をもって終了しました。第1目標の1000万円を達成し、さらに第2目標の1500万円を上回る2509万9626円ものご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。



支援者からの支援サイトでのメッセージ、そして直接来院して応援いただけただけは職員一同の大きな支えとなりました。皆さんからの支援を受け、内視鏡センター開設への期待の大きさを改めて感じ、良いセンターを作ろうと決意を新たにしました。  
内視鏡センター開設の準備は着々と進行中で、今夏の開設を予定しています。皆さんのご期待に沿えるよう頑張っていきます。  
(広島県済生会 済生記者 足利麻里子)



贈呈式に先立ち、梅津医師から日田警察署長にインフルエンザ急増の現状が報告されました。この情報は、署長挨拶の中で注意喚起として全体に共有され、地域全体の健康管理意識を高めるきっかけとなりました。

警察への協力に感謝状  
12月26日、日田市内で警察業務に貢献した団体・個人を対象に日田警察署で感謝状贈呈式が行なわれ、当院からは救急科の梅津成貴医師が表彰されました。梅津医師は昨年6月に発生した事件の捜査において、迅速かつ協力的な対応をしたことが評価され、今回の表彰に至りました。  
(大分) 日田病院

同じ病院で働く梅津医師が多くの参列者から温かい拍手を受ける姿を間近で見、大変感動するとともに、自身も地域社会にどのような形で貢献できるかを考える貴重な機会となりました。  
(総務課主事 秦 啓太郎)





〈大分〉 日田病院  
職員皆の声で選ぶ  
マスコットキャラクター

当院では病院のブランドイメージ向上と広報活動の活性化を目的に、マスコットキャラクターの制作を進めています。



病院職員を対象に公募を実施。令和6年8月1日から9月30日までの募集期間中に合計38作品の応募がありました。

1月16日現在、応募作品の選定プロセスを進めており、職員投票で10作品までに絞り込まれています。今後は患者さん投票、インスタグラムを活用したオンライン投票など複数の視点から評価を行い、年度内にはキャラクターが決定する予定です。

選ばれたキャラクターはイベント

やノベルティ、SNS、院内掲示物など幅広い広報活動に活用します。

（システム管理室係長 久保田倫有）

〈三重〉 松阪総合病院  
フードドライブ活動で  
社へ食料品を寄贈

12月2～18日、2023年12月以来4回目のフードドライブ



を実施しました。今回も前回と同様、当院職員に声掛けを行ない実施。食料品を中心に、お米55キロのほか缶詰やレトルト食品、調味料など段ボール3箱分が集まり、12月20日に松阪市社会福祉協議会へ寄贈しました。

同協議会では「生活の困りごとや悩みごとを一人で抱えることなく、一緒に考えていけるようなきっかけに」と、企業の協力を得て食品を配布する「あつたかごはんプロジェクト」に取り組んでいます。

贈呈式には垣本斉副院長が出席。「この活動を通して、食品ロスを防ぐ大切さを再認識する機会を持つことができました。今後、積極的に協力し、少しでも地域の皆さんのお役に立てれば」と話しました。

（用度課 田端雄輔）

兵庫県病院  
次世代を担うリーダー育成

人事・調整室主催の次世代リーダー研修を11月6日と18日の2日間、講義室で開催しました。この研修は、人事評価制度の骨子や目的について理解を深めることを目的としています。初開



ザで当院整形外科・小林秀郎主任部長が「ひざ関節や股関節の痛みについて」と題して講演を行いました。

予想を大きく上回る応募があり、当日は31人が参加しました。「今、膝や股関節に痛みを感じている人は？」という小林医師の問いかけに、参加者のほとんどが手を挙げる一幕も。多くの人が悩み、興味を持っている話題であることがうかがえました。

講演では、痛みを我慢し続けることで変形が徐々に進行し、さらに痛みが悪化する悪循環に陥るといった話もありました。今回の講演を通して、痛みを我慢せず早めにかかりつけ医に相談し、症状の改善する患者さんが一人でも増えればと思います。

（済生記者 南川茉悠）

静岡済生会総合病院  
体験型医療イベントで  
手術を実演

10月26・27日にツインメッ



当日は各演習を通じて、リーダーに求められる役割について再認識する機会を提供。その結果、他部署間の垣根を超えたコミュニケーションの場が構築でき、相互理解を深める一助となりました。

参加者からは「研修に参加でき楽しかった」「リーダーが担う役割が認識できた」といった声が寄せられ、研修の有意義さがうかがえました。

（人事・調整室 伊藤 駿）

セ静岡で「メデイメッセージ2024」が開催され、2日間で約5500人が来場しました。これは地域のより良い医療環境の実現を目的とした、地域住民・子ども向けの体験型医療イベントです。

当院からは循環器内科・山田実医師が心臓カテーテルの実演、外科・鈴木潔医師、麻酔科・小柴真一医師、手術センター看護師の大庭進吾さんと横山礼さんが腹腔鏡胆のう摘出術の実演に

参加しました。

また、放射線技術科・山崎敬之さんがトークライブに出演。医療のお仕事体験ブースには救命救急センター看護師・田村朋哉さん、放射線技術科の職員5人がスタッフとして参加しました。

オベ室再現スペースには模擬手術の実演を一目見ようと約200人が集まり、モニターの映像に見入っていました。

（企画・広報課 滝田恭子）

〈神奈川〉 横浜市南部病院  
膝・股関節の痛み  
放置しないでまずは相談

12月19日、日下地域ケアプラ





〈三重〉介護老人福祉施設  
明和苑

感謝を込めた演奏とダンス

当施設併設の明和苑デイサービスは、20周年の節目を迎えることができました。これも関係者の方々や日々施設を利用しての利用者さんのおかげです。この節目に、12月16〜20日の5日間、毎年恒例の感謝祭を開催。今回は特別な年ということ



もあり、豪華な演目を増やしました。施設長と事務長のデュエットに始まり、職員によるハンドベルの演奏、そして元気いっぱいダンスなどを披露しました。

利用者さんからの「頑張っってやってくれたことがうれしい」「とても楽しい時間だった」との温かい言葉と楽しんでいただけた様子に、練習を重ねてきた職員一同、大きな喜びと感動を覚ええました。

(明和苑デイサービス  
介護福祉士 木下将希)

〈福井〉特養聖和園  
地域とともに学び楽しむ

11月17日、聖和園デイサービスホールで地域交流委員会主催の「聖和園地域交流会」が開催されました。地域の方々41人と職員が参加し、「地域の一人として信頼される施設」を目指す取り組みの一環として行なわれました。

当日は大野市の消防署職員と防災防犯課の方による災害に関する講義が行なわれ、防災意識の向上につながりました。その後、職員によるエレクトーン演



奏やセラバンドを使った体操を実施し、楽しい時間を共有しました。コーヒーやココア、お菓子が用意されたテーブルでは参加者同士の自然な会話が広がり、交流を深める場となりました。

参加者からは「学びも楽しみもある貴重な時間だった」と好評で、地域と施設の絆がさらに強まる機会となりました。

(済生記者 野尻 宗)

〈滋賀〉栗東市訪問看護  
ステーション

日々の安全運転が表彰

11月28日、当事業所は安全運転管理者協会から安全運転を評価され「優良安全運転事業所」として表彰を受けました。

当地域での訪問看護において、公用車での運転は欠かせません。当事業所では安全運転管理者が年1回の研修を受けるとともに、職員は日々の訪問の前に公用車の運行前点検を実施しています。また、出勤時に体調とアルコールチェックを行ない、車と人双方の安全を確認してから出発



余裕がないときには平常心を忘れそうになるときもあります。これからの時間と気持ちにゆとりを持ち、交通ルールを守り、済生会の一員として恥じない運転マナーに努め、利用者さんに最高のケアをお届けします。

(看護課長 大西幸子)

〈東京〉中央病院  
図書館で医療健康講座  
病院や医師の仕事を紹介

12月15日、港区立三田図書館で医療健康講座を開催しました。今回のテーマは「医師の世界のぞいてみよう!」。当院呼吸器内科・砂田啓英也医師が、受験を控える中高校生とその保護者を対象に話をしました。

参加した43人は皆真剣な表情で聴講し、医師になるための受験準備のポイントや、仕事のやりがいなど具体的な質問が飛び交っていました。講座の終わりに設定した白衣を着用しての撮影タイムも好評で、親子で楽しんでいました。

終了後、砂田医師は「医療の世界を身近に感じてもらえたら大変光栄。私もとても楽しか



った」と話してくれました。今回は図書館の計らいで会場を無償で使わせていただき、また今後も継続的に講座を開催できることに。地域とのつながりを広げる重要な取り組みになることを期待しています。

(地域連携室 佐藤弘恵)

〈山形〉特養ながまち荘  
地域のケアマネ25人で  
貴重な意見交換の場

1月15日、市内の鈴川交流センターで近隣地域の五つの居宅介護支援事業所のケアマネジャー25人が集まり「合同事例検討会」が開催されました。

今回、当荘では第一部の事例



提供を担当。5グループに分かれ討議した後、解決案を発表しましたが、当事業所だけでは思いつかなかった案が多数出て、事例提供者も解決の糸口が見つかったようでした。

第二部では保険証のマイナンバーカードへの移行に関わるケアマネジャーの支援のあり方を題材に話し合いが行なわれ、我々がどこまで介入すべきか互いに確認する場となりました。

普段、交流機会の少ない居宅介護支援事業所同士ですが、今回は意見交換ができる貴重な時間となりました。

(済生記者 高見友郁)

〈愛媛〉松山特養  
地域の中学生と交流



12月19日、近隣の県立松山西中等教育学校・家庭科クラブの中学生4人が1年ぶりに訪問してくれました。  
今回は、利用者さん10人と一緒に魚釣りゲームをして交流を図りました。生徒たちは利用者さんの隣で取った獲物を外したり、釣り糸の絡まりを直したり

協力してゲームに取り組み、「何を取りますか」「たくさん取れましたね」など会話にも花が咲いていました。  
最後に手作りカレンダーのプレゼントをいただき、利用者の皆さんは生徒たちが帰るのを名残惜しそうに手を振って見送りました。

（済生記者 畑中利恵）

滋賀県病院

研修医2年目・中村医師が  
学会発表で優秀演題賞



12月7日に開催された第138回日本循環器学会近畿地方会で、当院の初期臨床研修医2年目の中村優月医師が「学

生・研修医セッション」で見事優秀演題賞を受賞しました。  
今回の学会参加は、当院循環器内科医師からの推薦がきっかけでした。中村医師は来年度から循環器内科に進む予定で、特に不整脈の分野に深い関心を持っています。

中村医師は「珍しい症例の治療に携わらせていただき、より深い学びを得られたことは非常に価値ある経験だった」と語り、不整脈の分野をさらに探究する決意を新たにしました。また、「今後は症例報告も行ない、積極的に学びを共有していきたい」と意気込みを見せていました。

（済生記者 有馬真由美）

長崎福祉センター

心温まるみかんの贈り物

12月11日、長崎県総合福祉センターでみかんの贈呈式が行なわれ、長崎県共同募金会と長崎西彼農業協同組合女性部長与支部から三つの福祉施設にみかんが贈られました。  
式には、長崎県共同募金会の野嶋克哉常務理事、長崎西彼農業協同組合女性部の田中美佐子

部長、みかんの寄贈を受けた三施設（児童養護施設説明星園、障害者支援施設ながさきワークビレッジ、当センター・特養など）の中で、田中部長からは「猛暑などの影響で例年の4割ほどしか収穫できなかったが、何とか長与のおいしいみかんをお渡し



できることとなりました」との心温まる言葉がありました。  
今回、なでしこ荘にいただいた貴重なみかんは4ケース。早速利用者の皆さんに提供すると「甘くておいしい」と大変喜んでいました。  
（済生記者 川端 誠・川瀬義博）

5年ぶりに復活！メス・ステート納め

〈埼玉〉川口総合病院

12月27日、年末最後の通常診療終了後に「メス・ステート納め」が5年ぶりに行なわれました。このイベントは、外科医がメスを豆腐に刺して納め、内科医がステート（聴診器）を納めるという当院の年末恒例行事です。

つたおしるが絶品でした。一年の疲れが癒やされました」と喜びの声を寄せていました。  
医療現場の最前線で奮闘する職員たちが一堂に会し、互いに労をねぎらい合う貴重な機会。仕事を納め、来年への活力を皆で分かち合う心温まるひとときとなりました。  
（済生記者 原 衣里奈）

〈埼玉〉鴻巣医療福祉センター  
ビュッフェで職員間交流

11月17・20・23日の3日に分けて、互助会「済友会」主催のイベントを5年ぶりに開催しました。以前は日帰りバスツアーなどを企画し、職員間の交流を深めていましたが、コロナ禍によりイベントは自粛していました。

今年度は委員会での投票により、ホテルでのランチビュッフェに決定。久しぶりの開催で事務局もすっかり手順を忘れていましたが、今年度の委員の協力もあり無事当日を迎えることができました。



会場となった地下コンコースには各診療科が準備した飲食ブースが並び、鮭のチャンチャン焼きやおでん、チキンカレーなどのバラエティー豊かな料理が、参加した約200人の職員に振る舞われました。  
初参加の職員は「循環器内科の高木厚先生がよそってください



今回は例年通りの日曜日に加えて、土曜日・平日も選択肢に入れて実施。各日とも40人前後が参加し、楽しいひとときを過ごしました。参加者からは「食べ過ぎた！」「おいしかったよ」「また企画してね」などのうれしい言葉をいただきました。  
（鴻巣病院 総務課 中島涼子）



〔福岡〕 大牟田病院

くつろぎの居室空間に変身

本院の一部個室のリフォームと、2床室の新設工事が令和6年末に完了しました。本館建設から24年目を迎えるとしていますが、大幅な改築等をしたことがなく、特に個室の老朽化が顕著でした。さらに令和6年3月には地域医療構想の指針を受け、病床1割のダウンサイジングを行ない一部を地域包括ケア病棟へ機能転換。この機にリフォーム・新設計画を立てました。



個室は導線に配慮した設計。付き添い家族にも配慮した設備品をそろえ、落ち着きのあるくつろぎの空間へ変化しました。

2床室も可能な限り専有スペースを確保し、他者を気にせず過ごせる空間となりました。

利用した患者さんからは「安心して気兼ねなく過ごせた」「落ち着きのある空間でホテルのようだった」など多くの感想をいただいています。

（済生記者 松岡 健）

滋賀県病院

心癒やされる名曲が響く

12月16日、当院1階エントランスホールで、患者さんや地域の皆さんに癒やしとやすらぎをお届けするホスピタルコンサートを開催しました。

例年好評をいただいている、メゾソプラノ歌手の萩野美智子さんとピアノ伴奏の遠藤玲子さんが出演。「アヴェ・マリア」や「O Holy Night」など珠玉の5曲が披露されました。

さらに、サブライズゲストとして三木恒治院長が「ハワイ・クリスマス」を歌い上げ、会場全体を温かい感動で包みま

した。



コンサートには50人ほどが来場。華やかな歌声とピアノの音色が吹き抜ける外來フロアに響き渡り、外來患者さんや付き添いのご家族、そして入院患者さんもその美しい音色に癒やされていました。

（済生記者 有馬真由美）

〈奈良〉老健シルバーケア まほろば

6年ぶりの地方開催に 役職者56人が集まる

全国済生会老人保健施設協議

会が11月29日、グランドメルキユーール奈良檜原で開催され、本部・老健24施設の役職者56人が出席しました。地方開催は新型コロナウイルス流行前の平成30年度以来6年ぶりで、当施設が開催担当を務めました。



はじめに済生会本部・松原了理事、当会・山本昌也会長（愛媛・老健にぎたつ苑長）、奈良県済生会・今川敦史支部長、当施設の吉井尚施設長が挨拶。続いて当施設から「外国人雇用の現状」についての発表、全国老人保健施設協会・山本貴一課長補佐による講演がありました。参加者からは「他施設の人材

獲得について貴重な話が聞けた」などの感想があり、活発な意見交換が交わされました。令和7年度は〈山形〉老健フーローさいせいの担当で開催予定です。

（済生記者 林 嘉夏）

新潟病院

本物の看護師さんみたい

11月9日、新潟市産業振興センターで「福祉・介護・健康フェア in 新潟」が開催され、4000人が来場しました。当院からはスタッフ15人が参加して出展し、病院のPRに努めました。

職業体験コーナーでは、子どもたちが看護師のユニフォームを着用し、車椅子体験やバイタル



〈大分〉日田病院

地域全体で感染症に備え

感染対策向上加算1の届出要件の一環として、11月26日に新興感染症を想定した合同訓練を実施しました。この訓練は、新興感染症発生時に備えて保健所と地域医療機関の連携を強化し、対応力の向上を図ることを目的としています。

当日は当院から3人、市内診療所・保健所から12人が訓練に参加し、医療機関や行政等から合わせて約50人が見学に訪れました。

訓練では、新興感染症の疑い



患者が来院した際の初期対応をテーマに、問診や検査、防護服の正しい着脱方法、患者搬送の手順などを実演。また、保健所への連絡や情報共有の流れをシミュレーション形式で再現し、関係機関間の連携状況を確認しました。

（総務課 鷹野勇介）

# topics

## 歌や笑いで 日常に心の彩りを

〔福井〕 特養聖和園



主事 山村健太

いる中で、自分自身そのような場面に遭遇した際に、どう対処するか学ぶことができた。他の職員もぜひ受講してほしい」とコメントしました。

（総務・企画課

11月20日、当園東棟ホールで「奥越初めまして楽しむう会」を開催しました。越前の伝統工芸士で芸人としても活躍する玉村秋子さんを迎え、特養とデイサービスの利用者さん約50人が参加しました。

## 〔佐賀〕 特養・ケアハウス めすら荘

### 皇后陛下からの御下賜品

12月上旬、皇后陛下のお誕生日にあたり、特養ならびにケアハウスめすら荘に皇后陛下から御下賜品の手拭いを賜りました。合計140人が御下賜品を受け取り、皆とても喜んでいました。「思いがけないことでもうれしかった」「絵柄がとてもすてき」と話す方もいました。

（済生記者 脇山初美）

皇后陛下のお心遣いへの感謝とともにお誕生日を祝う喜びで施設全体が一体となり、心温まる一日となりました。

## ロボット支援手術初症例 多職種協働で準備

〔愛媛〕 松山病院

11月12日に当院のロボット支援手術初症例となる前立腺全摘徐術が行なわれました。初症例の約1カ月前からロボット支援手術の導入に必要なトレーニングやシミ



エレベーションに加え、近隣病院の施設見学を実施。医師、臨床工学技士、看護師が話し合いやコミュニケーションを通して、さまざまな視点から意見を出し合いながら準備を進め、多職種協働で調整を行ないました。初症例当日は患者入室から麻酔導入、体位固定、手術と滞りなく進行し、無事に終了。また、院長はじめ他科の医師、他部署のスタッフも見学しました。12月末現在で4例のロボット支援前立腺全摘徐術を行ないました。初症例以降も課題をクリアしながら、スムーズかつより良い手術ができるようブラッシュアップに取り組んでいます。

（手術室看護師 金本千秋）

歌や笑いがもたらす癒やしの効果を改めて感じられる場となり、「また参加したい」「元気がもらえた」といった声がたくさん聞かれました。

（済生記者 野尻 宗）

新潟病院

## 未来を担う子どもたちに 病院の取り組みを紹介

11月14日、当院と同じ新潟市西区にある市立小針中学校の1年生7人が、総合学習の一環で当院にやってきました。

当日は2班に分かれ、院長、看護部長、救急科医師らが対応し、質疑応答と救急外来見学を



実施。生徒からは「医療の人手不足の現状はどうか」「救急患者への対応はどうなっているのか」など熱心に質問が出され、職員が分かりやすく回答しました。また、白衣を着て実際の救急外来の現場を見てもらい、医療を身近に感じてもらいました。後日届いた生徒たちからのお礼の手紙の中には、将来医療職に就きたいというコメントもありました。未来を担う子どもたちに当院の取り組みを伝えることができ、当院にとっても大変良い機会となりました。

（総務課 吉川未織）



福井県済生会病院

## ハラスメントへの対応を 講義と実技で学ぶ

11月20日に当院で防犯研修会を開催しました。職員と院内の安全を守るための教育が目的で、各部署・フロアから選任された保安対応職員約50人が参加。築修一警備主任が講師を担当し「ペイシエントハラスメントの定義と対応」「身体防護訓練の



実技」「不審物の取り扱い」の三つを中心に講義と実技指導を実施しました。

今年度はその中でもペイシエントハラスメントへの対応についての講義を重点的に行ないました。参加した男性職員は「ハラスメントについて注目されて

**福井県済生会病院  
がん相談支援センターが  
認定更新**

当院のがん相談支援センターが2024年12月に「認定がん相談支援センター」施設として認定更新しました。  
この認定を受けている全国の施設は1月時点で31施設。がん診療連携拠点病院等の整備指針が定める要件を満たしているだけではなく、相談支援の質を維持・向上させていくための体制整備に努めている、相談対応を振り返り評価・改善活動に取り組んでいるなど、一定の基準を満たした場合に認定されます。また、継続的に質の維持・向上活動を推進している場合に更新されます。



当院はがん診療連携拠点病院として、がん患

者さんやそのご家族のサポートを重要な使命と位置づけています。センターの職員は「今後も患者さんに寄り添った支援に取り組んでいきます」とコメントしました。  
(総務・企画課  
主事 山村健太)

**〈大阪〉吹田病院  
知っておきたいがんの11問**

当院がある吹田市に隣接する摂津市と近隣住民を対象に、11月23日に市民公開講座を摂津市



立コミュニティプラザ3階・コンベンションホールで開催しました。がん診療支援センター主催で、当日は62人の参加がありました。

講座のテーマは「知っておきたいがんのこと」。開会の挨拶後、がん診療支援センター・吉川卓郎科長による「がんってどんな病気？」がんの病態と診療体制について」をはじめ、「がん運動」自宅でもできる運動」「がん診療における豆知識、緩和ケアのこと」「がん相談支援センターと、がんの治療費の話」の計四つの講演や運動の実演を行いました。参加者は熱心に演者の話を聞いていました。(診療情報管理課長 鮫島正俊)

**〈三重〉松阪総合病院  
松阪警察署長から感謝状  
防犯啓発活動に貢献**

当院は、警察業務における防犯啓発活動や警察署関係者の健康管理に携わった実績が認められ、12月19日に松阪警察署長から感謝状をいただきました。

当院では防犯啓発活動の一環として、病院エントランスに「警察署安心・安全掲示板」を設置。



オレオレ詐欺や特殊詐欺の啓発ポスターなどを掲示し、患者さんに広く注意喚起を行なっています。特に高齢の方の防犯意識は高く、掲示板に目を向ける人も多く見られます。  
今後も防犯啓発活動を通して地域の安心・安全の実現に貢献し、医療と福祉の提供に努めていきます。  
(医事課 北河 泉)

**〈山形〉特養やまのべ荘  
80歳ともむ歯クリニック  
厚生労働省と日本医師会が推**



進する「8020運動」の達成表彰において、従来型入居者4人と地域密着型入居者3人が受賞しました。受賞者の皆さんは記念撮影の際、健康な歯の証である白い歯を輝かせ、にっこりと笑顔を見せてくれました。  
80歳以上で歯を20本以上残すことは、日々の食事の楽しみを味わい、全身の健康と生活の質を高めることにつながる重要な目標として掲げられています。  
当荘では歯科医師や歯科衛生士のサポートのもと、介護職員が口腔ケアに取り組んでいます。生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わえるように、入居者の皆さんのお口の健康と笑顔を守っていきたく考えています。  
(済生記者 岩田恭寛)

**〈山形〉養護(盲)老人ホーム  
山静寿  
寿司とカラオケで大盛況  
笑顔でいっぱい忘年会**

12月20日、毎年恒例の忘年会を1階食堂で開催し、入所者さん44人が集まりました。  
忘年会は1年間の締めくくりに、入所者の皆さんに楽しんでいただくことを目的として



また、皆さんにより一層楽しんでいただくようカラオケも実施。歌わない人も体を揺らしたり、手拍子をしたりと皆さんが一体となって盛り上がりました。  
参加者からは「楽しかった」との声が聞かれ、スタッフ一同大変うれしく思いました。  
(済生記者 丹 秀樹)



新潟県中央基幹病院

国境なき医師団外科医の活動報告会に120人

12月12日、外科主任診療科長の中塚英樹医師が国境なき医師団(MSF)の活動報告会をを行い、約120人が会場・オンラインで参加しました。中塚医師は2024年8月末から2カ月間、南スーダンのアビエイでMSFの外科医として活動。限られた医療資源の中で治療に携わりました。報告会では、医療資源不足や衛生環境の問題といった現地で



の課題、文化や気候への適応などについて貴重な体験が語られました。さらに、貧困の状況や生活環境、インターネット環境派遣先の決定プロセスについても説明がありました。参加者は報告会を通して、医療の現場が国境を越えてつながっていることを改めて認識。国際協力の大切さや、国際支援支援活動への理解を深める貴重な機会となりました。

(済生記者 小柳裕一)

〈栃木〉宇都宮病院

関東地方更生保護委員会委員長感謝状を受賞

11月26日に開催された更生保護制度施行75周年記念栃木県更生保護大会において、関東地方更生保護委員会委員長から感謝状を授与されました。当院ではなでしこプランとして、平成21年から更生保護施設入所者の方々へ無料健診事業をはじめとした医療的支援を提供し、社会復帰のための支援を強化してきました。今回の受賞を受け、地域社会での当院の貢献が認められたことを大変光栄に思います。

(地域連携課 秋山綾香)



更生保護制度が施行されてから75年という節目に、当院の取り組みが社会的責任を果たす一助となったことに感謝し、今後も更生保護活動に積極的に関与してまいります。

〈新潟〉特養康和園

KYTTで「安全ヨシ！」

12月5日、当園でKYTT(危険予知訓練)を実施しました。訓練には職員30人程度が参加。5〜6人ごとに班に分かれ、例題の写真に写っている状況にはどのような危険が潜んでいるかを話し合いました。筆者も参加しましたが、班で話し合うこと



今後当園ではKYTTを定期的に行なう予定です。危険に対する意識を高め、事故を未然に防ぐことで、入居者の皆さんが安全で安心できる施設運営を目指していきます。

(済生記者 山田裕樹)



ボランティアの皆さん いつもありがとう

〈神奈川〉横浜市東部病院

当院のボランティアさんには、頃々の感謝を伝えるため、12月10日に会食室で感謝の会を実施しました。当日はボランティアさん5人と患者サービス委員会委員長・渡邊輝子看護部長のほか、同委員会と外来支援室のスタッフ6人が参加。はじめに渡邊看護部長がボランティアの皆さんに向けて、院長はじめスタッフからの感謝とねぎらいの言葉を伝えました。

その後、2023年4月から現在に至るまでのボランティア活動について、資料や映像を見ながら報告。活動内容は外来での患者さんのご案内や院内の植物の展示など、多岐にわたっています。

ボランティアの皆さんからは「楽しんで活動をしている」との感想とともに意見や困りごとも寄せられ、今後のより良い活動運営のために皆で共有しました。

(済生記者 荒木愛美)

岡山済生会総合病院

県議員が緩和ケア病棟視察

11月29日、がん対策推進岡山県議会議員連盟の議員15人が、当院の緩和ケア病棟を視察しました。

議員連盟の内山登会長、当院の大原利憲名誉院長、仁熊健文院長の挨拶に続いて、緩和ケア科の石原辰彦診療部長が緩和ケアについて講演。「病棟開設から26年が経過し、担う役割も増えている。緩和ケアが特別なものではなく、医療の基本としてどこでも誰でも自然に受けられるようになることが私の夢です」と話しました。病棟では、患者さんがくつろ



いで過ごせるデイルームや特室、患者さんが寝たままの状態でも入浴できる機械浴室などを見学しました。参加した議員からは「患者さんとそのご家族が、温かく落ち着いて過ごせる環境が整っている。大変実り多い視察となった」との感想がありました。

(広報企画課 中村貴美子)



**「岩手」陸前高田診療所  
サンタ先生の診察**

2024年もクリスマスマスの季節がやってきました。12月14日に整形外科医の武内典夫先生がサンタクロースの姿で当診療所へ来てくださいました。

武内先生は〈神奈川〉湘南平



さんが心を込めて一つひとつプレゼントのクリスマス用の飾り物を作成。「いつも子どもたちから元気をもらっているのでお返しできれば」などと笑顔で語りながら、皆さん熱心に制作に取り組んでいました。思いやりあふれるサプライズが、子どもたちを笑顔にすることを願って……。

12月23日に筆者が両保育園を訪問し、それぞれ保育士の先生にプレゼントをお届けしました。子どもたちが喜んでくれた姿を想像するだけで、幸せな気持ちになりました。

（福岡・特養むさし苑  
済生記者 岸川涼二）



**看護師が闘病患者さんにプレゼント**

福岡総合病院

昨年12月、がん治療センター！化学療法外来の看護師でクリスマスカードを手作りし、化学療法を受ける患者さんにお渡ししました。

作成した枚数は60点ほど。そのうち50点を患者さんたちにお渡ししたそうです。

受け取った患者さんは「クリスマスも治療なのか……と重い気持ちでここに来たけれど、カードをいただいて本当にうれしいです。優しいメッセージに癒やされました」と笑顔を見せてくれました。

「作成は大変でしたが、治療が続く中で、少しでも患者さんの楽しみや癒やしになれば私たちがもうれしいです」と話す看護師。患者さんと思う優しい気持ちがあふれる年末のイベントでした。

（済生記者 富永朋美）

★患者さんにとって大きな支えになったことでしょうか。「しあわせにする看護」ですね。

（本部広報課 河内淳史）

**〈愛媛〉小田老健ふじの園  
クリスマス忘年会で  
世代間交流**

師走恒例のクリスマス忘年会



を12月5日、ふじの園ホールで開催しました。今回は地元の小田幼稚園の園児たちも参加し、総勢75人でのとてもにぎやかで楽しい時間となりました。

園児たちはオペレッタを披露し、一生懸命な姿に利用者さんは「かわいいな」「いつまでも見ていられる」と大喜び。その後、職員によるダンスやカラオケ、またビンゴゲームでは、楽しみながら一人ひとりにサンタさんからのクリスマスプレゼントを贈りました。

最後は1年を振り返るビデオ映像を流し、会を締めくくりました。久しぶりに世代間交流が



を実現し、利用者さんはもとより園児たちも楽しんで参加してくれたのがとても良かったです。

（事務 伊藤由美）

**〈福岡〉デイサービスセンター  
天拝  
園児たちへのサプライズ**

クリスマスを前に、デイサービスセンター天拝では、特別な行事の準備が進められていました。それは、近隣の二日市保育園とキッズ・キッズ保育園の園児たちへのクリスマスプレゼント作りです。

12月20日には、職員と利用者

塚病院の名譽院長で、現在は長野県でクリニックを開業、月に1回診療に来てくださっています。過去にはサンタ姿で新幹線に乗って岩手県まで来たこともあります。

サンタの診察が始まると、診察室に入ってきた患者さんたちは驚いた表情やうれしそうなお表情を見せていました。

診察後に武内先生から小さなプレゼントが渡されると、皆童心に帰ったような顔に。ほんのつかの間ではあるけれど、安らぎをもたえたような印象を受け、薬だけが治療ではないということに改めて思い知らされた一場面でした。

（済生記者 高橋恵美子）

**〈北海道〉小樽病院  
緩和ケアチーム初の  
クリスマス回診**

12月24日、緩和ケア内科の入院患者さんのもとに、サンタクロースとトナカイの集団が現れました。正体は緩和ケアチーム。患者さんに季節を感じてもらい、笑顔になってもらおうと、毎週火曜の多職種チーム回診に合わせた初の季節イベントです。

患者さんにはサンタの衣装に身を包んでもらい、クリスマスカードを手渡しして記念撮影。とってもうれしそうな表情を見守るチームの8人も皆、患者さんに負けない良い笑顔です。

イベントの発案者は同科の菊地未紗子



部長。以前勤めていた病院で、患者さんが明るさを取り戻すのを見て、当院でもぜひ実施したかったのだそう。巡回後、菊地部長は「やっぱり全員、すごく表情が変わりましたね」と目を細め、チームの皆も手応えを感じ「次は節分」と楽しそうに話していました。

（済生記者 定 淳志）



〈広島〉特養たかね荘こやうら  
好みに合わせた贈り物

12月25日、当施設に特別なゲストが訪れました。そのゲストはサンタクロース！ サンタに扮した職員が、39人の利用者さん一人ひとりにプレゼントを手渡しました。

この日のために職員一同、各利用者さんの好みに合わせたプレゼントを準備。その結果、どの利用者さんも大喜びで、施設全体が笑顔であふれました。



このイベントは、利用者さんが楽しみにしている行事の一つでもあります。1年の終わりを彩るこの特別な日は、利用者さんにとっても、職員にとっても、心温まる時間となりました。

〈大阪〉中津特養喜久寿苑  
20年目のプレゼント贈呈

12月16日、大阪東淀ちやま

ちロータリークラブから当苑入居者さんへクリスマスプレゼントをいただきました。当苑の代表として入居者さん2人が参加して、プレゼント寄贈式が行なわれました。

毎年、入居者さんが必要とする物をリクエストし、これまでテレビやレクリエーショングッズなどさまざまな品物をいただいています。

20年目を迎えた今回のプレゼントは、車椅子や褥瘡予防クッションなどなど。お返しに長谷川吉則苑長がクラブメンバーへ感謝状を贈呈しました。



〈福岡〉デイサービスセンター  
クリスマスプレゼントは  
利用者さんの笑顔

天拝

デイサービスセンター天拝では12月19・20日の2日間、にぎやかなクリスマス会を開催しました。この年末の恒例行事に89人の利用者さんが参加しました。職員たちはサンタクロースやトナカイに扮し、歌や踊りで場を盛り上げました。さらに、近隣の二日市保育園の園児たちが心を込めて披露した歌とダンスの映像を上映し、利用者さんた



〈富山〉幼保連携型認定こども園  
なでしこ保育園  
キャンドルサービスで  
サンタさんをおもてなし

12月20日、当園でクリスマス会を行ない、141人の子どもたちが参加しました。

富山病院の職員2人が来園し、サンタクロースに変装。プレゼントを大きな白い袋から取り出し、子どもたち一人ひとりに手渡しました。受け取った子どもたちも「ありがとう」ととても喜んでいました。

サンタさんに興味津々の子どもたちは「どうしてサンタさんは空を飛べるの?」「昨日は何



食べたの?」などの質問をしていました。その後、年長児がキヤンドルサービスを行ない、年少児が楽器演奏、年中児がダンスを披露。サンタさんと楽しいひとときを過ごしました。

(主幹保育教諭 堀田理恵)

岡山済生会総合病院  
サンタさん来てくれたよ!

12月24日、子どもたちが待ちに待ったクリスマス会を開催しました。

1歳児の部屋に約50人の園児が集まってクリスマス会スタート！ 手遊びをした後、マジックやパネルシアター「サンタさんのファッションショー」を見ていると、「リンリン、リンリン」と鈴の音が。なんと、サンタクロースがプレゼントを持ってきてくれました。

赤い服を着た知らない人が入ってきたので、涙が出たり表情がこわばったりする子もいましたが、ほとんどの子どもたちは間近で見るサンタさんに興味津々。2歳児は「どこからきたの?」「なんで赤い服なの?」と質問もできました。サンタさんから直接プレゼントを渡して



もらい、楽しいクリスマス会になりました。

(なでしこ保育園 園長 戸田佳子)

〈北海道〉小樽病院  
誰かにそっくりなサンタ

12月20日、院内保育所「なでしこキッズクラブ」の園児15人にクリスマスプレゼントを届けるため、サンタさんとトナカイさんが来てくれました。

子どもたちは、和田卓郎院長にそっくりなサンタさんから一人ひとり名前を呼ばれ、プレゼントを受け取りました。漫画などに出てくるサンタさんとは



テム課主任に瓜二つのトナカイさんには、子どもたちからお礼の手紙が渡されました。最後はクラスごとにサンタさんとトナカイさんとの記念撮影が行なわれたのですが、年少さんはあまりの怖さに大泣きしてしまいました。

(広報室 松尾寛志)



〔福岡〕 飯塚嘉穂病院  
緩和ケア病棟で  
クリスマス演奏会



12月25日、緩和ケア病棟で職員による院内音楽バンド「K's Music Club（ケーズミュージッククラブ）」のクリスマス演奏会が行われました。  
同バンドは、リーダーの喜多良晴主任作業療法士（ユーフォニアム）を中心にさまざまな職種メンバーで構成されています。今回は5人のメンバーで「白い恋人達」や「恋人たちのクリスマス」など4曲を披露。患者さんにも職員もサンタの帽子をかぶり、20人ほどが演奏を楽しみました。  
また、サンタクロースやトナカイ姿の医師らが病室を訪問し、プレゼントを渡したり、記念撮影を行ったりしました。クリスマスにもちなんだデザートも提供され、患者さんたちに喜んで

いただけました。

（済生記者 松岡亜希）

〔大阪〕 野江病院  
恒例の「六甲おろし」で  
大盛り上がり！



12月20日、「なでしこふれあいコンサート」クリスマスバージョンを当院1階ロビーで開催しました。  
当日は音楽療法活動を行なうピアノの西山満理さん、ソプラノ歌手の石橋文恵さん、バイオリニストの穂積洋子さんが来院。クリスマスメドレーやクラシック、歌謡曲などさまざまな楽曲を約1時間にわたり披露しました。

今回で27回目。開催を楽しみにしてくれている方も多く、用意した50席がいっぱいになるほどでした。来場した方々はすてきな演奏に合わせて拍手をしたり、歌詞を口ずさんだり楽しんでいました。  
アンコールでは恒例の「六甲おろし」で大盛り上がりした後、「きよしこの夜」が演奏され、穏やかな雰囲気ですコンサートが締めくくられました。

（済生記者 坂本千晶）

〔茨城〕 水戸済生会総合病院  
サンタさんと一緒に  
ダンスパーティー

当院職員の子どもたちが通うなでしこ保育園では、12月25日にクリスマス会を開催しました。各クラスが踊りの発表を行い、発表の後に保育士サンタからクリスマスプレゼントを一人ずつ受け取ると、子どもたちは満面の笑顔を見せていました。  
次は皆で楽しく、サンタさんと一緒に「あわてんぼうのサンタクロース」の歌に合わせてダンスパーティー。子どもたちはニコニコしながらピョンピョン跳ねたり、自由に元気いっぱい



踊りをサンタさんに一生懸命披露し、褒めてもらった子どもたちは大喜び！  
恒例の質問タイムでは、子どもたちが自分で考えた質問をサンタさんに聞いていました。「サンタさんは何歳ですか？」の質問には「70歳です！」と、じいじサンタは自分の年齢を答えてくれていました（笑）。

楽しい時間を過ごした後にはプレゼントを受け取り、最後にお礼のお手紙を手渡しました。来年もまたサンタさんが来てくれますように……。

（済生記者 西田千鶴）

〔山口〕 下関総合病院  
突然の訪問に目が点

12月23日、小児科病棟でクリ



突然の訪問に目が点いした。入院して治療を頑張っている患児たちの喜んでいる姿を見ることができ、スタッフにとっても大変幸せな時間となりました。  
（副看護部長 松田直子）

クリスマス気分も満喫！  
第3回なでしこCafé  
愛知県済生会リハビリテーション病院

入院中の患者さんに楽しんでいただくこと、摂食嚥下支援チームが企画し、2023年12月に初めて開店した「なでしこCafé」。

園長 小川律子

踊ったりしていました。

最後はサンタさんと写真撮影を行ない、とても楽しいクリスマス会になりました。  
（なでしこ保育園）



12月26日、併設のひびき保育園でクリスマス会を開催しました。  
今年はおじいさんにお力していただき、じいじサンタが登場。たくさん練習した歌や

〔山口〕 豊浦病院  
保育園でクリスマス会  
じいじサンタも登場！

12月26日、併設のひびき保育園でクリスマス会を開催しました。今年はおじいさんにお力していただき、じいじサンタが登場。たくさん練習した歌や

（栄養委員会 摂食嚥下支援チーム 看護師長 水越朋代）

（山口） 豊浦病院



色で一気にクリスマスモードに。その後、サンタクロース姿の森山明宏院長補佐が登場し、観覧していた患者さんたちにクリスマスプレゼントを渡しました。

第2部は職員音楽クラブが出演し、演奏と歌唱を披露。最後に会場の皆さんと一緒に「きよしこの夜」を歌って締めくくりました。

患者さんから「楽しかった」と声を掛けられ、参加した職員は早くも「次回も患者さんを元



第1部は職員コーラスクラブのクリスマスソングと、特別出演のピアノリスト・横田侑奈さんの独奏。どちらも素晴らしい音

〔神奈川〕重症心身障害児(者)施設サルビア  
**サンタさんと記念撮影**

重症心身障害児(者)施設サルビアで、12月14日にクリスマス会が行なわれ、19日にサンタクロースの訪問がありました。

クリスマス会では、横浜保育福祉専門学校(者)の学生さんがトーチタイムの演奏を披露。クリスマスツリーや電飾が飾られた季節感あふれるプレイルームに利用者さん34人とご家族10組が集まり、美しい音色に耳を傾けました。

サンタクロース訪問は認定NPO法人「難病のこどもを支



援全国ネットワーク」による交流活動の一環で、今年も入所児者さんたちを訪れてくれました。サンタクロースが各居室を回り、入所児者さんと一緒に写真を撮りました。大きく明るいサンタクロースの登場に入所児者さんもスタッフも笑顔になり、楽しいひとときを過ごしました。

(横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美)

〔三重〕松阪総合病院  
**歌やお遊戯会を楽しむ**

12月25日に院内保育園たんぼでクリスマス会が行なわれ、17人の園児たちが参加しました。

0歳児クラスでは歌を歌ったり、大橋範秀事務部長が扮するサンタさんから菓子のプレゼントをもらったりしました。1歳児クラスでは武田裕樹事務部長が扮するトナカイさん、鶴森立美看護部長、谷真澄副看護部長とともに、音楽に合わせてお遊戯会を実施。また、プレゼントを保育士と一緒に開封しました。今年は皆で遊べるシーンです。

子どもたちはいつもと違う雰囲気とサンタさんやトナカイさ



んの姿に緊張しながらも、しっかりプレゼントを受け取り、クリスマス会を楽しんでいました。

(済生記者 岩崎貴穂)

岡山済生会外来センター病院  
**音楽会にマラカスで参加**

12月20日、さくら病棟(地域包括ケア病棟)のデイルームでクリスマス音楽会を開催し、約30人の患者さんとスタッフが参加しました。

患者さんはこの日に向けて、作業療法の一環でマラカス作りを行ない、12月に入ってからマラカスを使った体操や歌の練習をしました。



当日はスタッフによるピアノ、ギター、カホン、ハンドベルの演奏に合わせて、患者さんはマラカスを振りながらクリスマスソングや「上を向いて歩こう」など全5曲を大合唱。笑顔があふれる素敵なひとときとなりました。

(さくら病棟 看護師 向井 茜)

〔大阪〕中津病院  
**素晴らしい音色で患者さんを元気に**

12月21日、クリスマスコンサートを開催しました。今回から北棟2階アメニティホールでの開催が復活。吹き抜けとなつて置ける3階や4階にも観覧席を設置し、延べ120人が観覧しました。

〔栃木〕宇都宮乳児院  
**ホールに響く「サンタさんー」の声**

12月20日にクリスマス会を当院共有ホールで行ない、入所児21人が参加しました。

保育課長扮する女神さまがクリスマスツリーに魔法の杖を振ると、イルミネーションが色鮮やかに点灯。女神さまから一人ひとり願いを込めた祝福を授けられました。

子どもたちの「サンタさんー」コールにこぼれて院長・係



気づけたい」と話していました。

(済生記者 鈴木亜希乃)

長扮するサンタクロースがトナカイを引き連れて登場すると、子どもたちの興奮も最高潮に。皆で「あわてんぼうのサンタクロース」を歌った後は、子どもたちにお菓子のプレゼントが配られ、記念撮影を行いました。

サンタさんと会えてよほどうれしかったのか、その後2、3日はホールに遊びに来るたび「サンタさんー」と呼びかける声が続いていました。

(済生記者 大久保彰子)

兵庫県病院

**お待ちかねのプレゼントタイム**

12月18日、当院敷地内のなでしこ保育所でクリスマス会が開催されました。

10人の子どもたちはサンタさんが来るのを楽しみにしながら、ツリーに飾り付けるかわいいブーツを手作り。ツリーの飾り付けが完成したところで待ちに待ったサンタさんが登場！子どもたちからは歓声が上がりました。

質問タイムでは、少し緊張しながらも「サンタさんは何歳ですか?」「好きな食べ物は何で







### 〈大阪〉障害者支援施設 ふくろうの杜

#### プレゼントや田舎物で 楽しい一日

生活支援一課（入所）が12月21日に、二課（通所）が12月17日にクリスマス会を開催しました。

一課のクリスマス会には入所者さん50人が参加。毎年恒例のイオンモール大阪ドームシティ店からのクリスマスプレゼントは、サンタクロース姿の竹鼻正幸店長から利用者さん代表へ贈呈されました。

景品付き魚釣りゲーム、クリスマス特別食とケーキを楽しみ、午後は職員からのクリスマスプレゼントや利用者さんのカラオケ大会、職員によるダンスや歌唱など盛りだくさん。笑い声あふれる一日を過ごすことができました。



二課のクリスマス会には利用者さん39人が参加。職員がサンタやトナカイの姿でプレゼントを渡すとともに喜んでいました。出し物やゲーム、カラオケなどでも大いに盛り上がり、心に

残る一日となりました。

### 〈茨城〉生活支援一課 新屋敷祐介

#### 5年ぶりの クリスマスコンサート

### 〈茨城〉水戸済生会総合病院

12月23日、当院正面玄関でクリスマスコンサートを開催しました。これまでコロナ禍で中止していましたが、5年ぶりに開催することができました。

当日は50人が演奏を鑑賞。ボランティアさんにも協力をお願いし、今回はチェロとキーボードの夫婦デュオとオカリナアンサンブルの2グループが演奏し



ました。ポップなクリスマスソングを交えながら、チェロとキーボードの優雅な調べで5曲、オカリナアンサンブルの温かみのあるハーモニーで7曲、全12曲に患者さんは皆聞き入っていました。

（総務課 番場絵里子）

### 〈石川〉金沢病院

#### 笑顔と魂の歌声を届ける

12月13日、当院エントランスホールでクリスマスコンサートを行いました。

当日は約50人が来場し、座るところがなくなるほどの大盛況。当院職員で結成した「SKHゴスペルクワイヤー」と「SKE（済生会金沢アンサンブル）」が演奏を披露しました。SKEはバンド演奏でクリスマスや演歌のメドレーを、筆者が参加するSKHゴスペルクワイヤーは皆で手拍子しながら、能登半島地震復興ソング「Home」

「Grace for all」を歌い上げました。

来場者からは「楽しかった」との声が聞かれ、中には涙している方も。クワイヤーのメンバーも「皆と歌うことが楽しい」「感動しながら歌えた」と話しており、コンサートの成功をより一層感じることができました。

（検査部 竹田ひとみ）



### 〈大阪〉野江特養城東園

#### 心を癒やす フラワーアレンジメント

12月21日、クリスマス行事としてフラワーアレンジメントを

行ない、入居者さん20人が参加しました。

この行事は近隣のフラワーアレンジメント教室「花のビーンズ」の西尾真理先生をはじめとするボランティアの方々協力により恒例となっており、ボランティア活動は20年にもわたります。

花を活ける作業は、単なる飾り付けにとどまりません。花を通して入居者さんに季節感を感じてもらい、心のリフレッシュを促します。また、花の香りや色合いは、認知症の進行を緩和する効果もあるとされ、入居者さんにとって大きな癒やしが存在となっています。

同ボランティアの皆さんには民謡も披露していただいでいて、今回の活動は3月。入居者さんもとても楽しみにしています。

（特養 係長 中西茂人）

### 京都済生会病院

#### 5年ぶりのコンサート

12月25日に当院のなでしこホールで「クリスマスコンサート」を開催し、患者さんら50人が来場しました。同コンサートは感染対策のため中止していましたが、5年ぶりの再開となりました。

演目は、職員13人によるハンドベル演奏、後藤幸子小児科副部長によるピアノソロ、後藤副部長と加藤淑子産婦人科顧問によるピアノ連弾、ゲストによる歌唱、齋藤敦志耳鼻咽喉科部長と後藤副部長と加藤顧問によるバイオリン・クラリネット・ピアノの三重奏です。

演奏者はサンタ帽子をかぶり「レット・イット・ゴー」ありのままの曲を演奏。ゲスト歌唱では「赤鼻のトナカ

イ」など3曲を来場者とともに歌いました。

来場者は手拍子をしたり歌を口ずさんだりしながら、さまざまな音楽を楽しみました。

（済生記者 白須優也）



## 載々

### 12誘導心電図から wide QRS 頻拍を見極める

福岡総合病院 循環器内科  
萬納寺部長

「Heart View」2025年1月号

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しします

（メジカルビュー社）の特集「12誘導心電図徹底攻略」治療はもう始まっている！」に、当院循環器内科の萬納寺洋士部長が「識る」4 もっ怖

くな、wide QRS 頻拍識別法」を



心電図診断で臨床的に大きな問題となる wide QRS 頻拍で、12誘導心電図から心室頻拍と上室性頻拍を見分ける方法についてポイントを絞ってまとめている。心電図判読力を高めたい人には必見の内容となっている。

（済生記者 畠永朋実）

## グリーンケアを必要とするすべての人へ

滋賀県済生会在宅支援センター

安井センター長

本誌や済生会ソーシャルインクルージョンサイトで滋賀県済生会訪問看護ステーションのグリーンケアの取り組みを知った「緩和ケア」（青海社）編集委員から依頼を受け、

2024年11月号の特集「グリーンケア実践のヒント」に安井明子センター長が寄稿した。  
グリーンケアは必要なのに十分に届けられていないのではなく、遺族ケアのニーズの充足は課題の一つとされている。本特集では緩和ケア病棟や専門外来でのグリーンケアの現状と、当事業所での在宅ケアについて

## 大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、この報告ください。

### 手術成功で無事に退院！

元気の源は「笑顔」

92歳と高齢ながら経皮的椎体形成術を受け、無事に自宅へ退院することができた和歌山病院の患者さん



紹介します。  
患者さんの名前は坂田幸子さん。昨年3月に突然の下肢筋力低下により歩行困難になり、他病院を救急受診。腰椎椎体骨折が判明し、なかなか症状が改善しないため当院を受診しました。  
5月29日入院し、6月21日には主治医の神前拓平先生と川上守院長により手術が行なわれ、術後の経過も良好で1週間後に退院することができました。

入院中のリハビリにも笑顔で明るく取り組んだ坂田さん。退院後、「先生方にとっても大事にしてください、リハビリに取り組むことができました」と満面の笑みでインタビューに応じてくれました。  
これからも、元気に活発な日々を送る子どもたちが主役になれる大切な日を、2人の演奏がさらに思い出に残る特別な日にしてください。

くの知見を得る。すごいです。

(本部広報課 河内淳史)

### 思い出に残るお誕生会に

幼児クラスで13人の子どもたちと職員10人が参加し、11月26日にお誕生会を開きました。

当日は幼児クラスと乳児クラスの保育士2人が、ギターとアコーディオンを演奏し歌を披露。お誕生会やお別れ会などではこの2人の有志が会を盛り上げてくれます。2人が演奏する曲は子どもたちの印象にも残るようで、会が終わっても大きな声で歌っている子もいます。

更衣室からはお昼の休憩時間を利用して練習中の演奏が聴こえてくることも。普段、集団の中で生活して



今日もあなたに会いに来たよ  
(大阪) 野江特養城東園・野江デイサービスセンターの利用者さんへ、この地域に根付いた服飾会社を営しながら民生委員やボランティア活動にも尽力してきた地域の名士がいます。多彩な趣味をお持ちで詩吟は名人級、英語も堪能。機会があればその才能を披露し、他の利用者さんを楽しませてくれます。  
その利用者さんが当園のデイサービスを利用するもう一つの理由は、同じく当園に同居している奥様との面会です。短時間ですが二人が面会する姿は微笑ましく、感動的……これぞ夫婦愛。  
特養とデイサービスの利用者さん同士が面会できることは、地域密着型デイサービスの強みではないでしょうか。これからも二人の微笑ましい姿を見ていきたいと思う今日こ



て掲載されている。  
また、グリーンケアは残された家

過ごされることを職員一同願っています。

(和歌山病院 済生記者 松元靖寿)

★素敵な笑顔の坂田さん。92歳とはビックリ！ いつまでも元気にお過ごしください。  
(本部広報課 大嶋 薫)

### 初めての国際学会で得た視点

11月6〜9日、札幌コンベンションセンターで第8回アジア太平洋作業療法士学会(参加者2000人)

が開催され、演者として発表の機会をいただきました。  
初めての国際学会、1人での参加ということもあり緊張しましたが、各国の治療法や研究成果を学び、多様なアプローチに触れることができました。

今回の発表は帝京大学との共同研究で、VRを用いた疼痛軽減への可能性を示したものです。発表後は多くの

の頃です。  
(大阪・野江特養城東園 送迎ドライバー 大城三彦)

の頃です。

(大阪・野江特養城東園 送迎ドライバー 大城三彦)

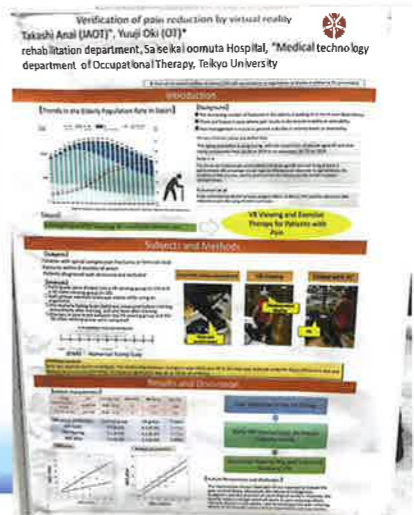
★素敵な夫婦の姿に心が温まります。いつまでも二人の笑顔見られますように……。  
(本部広報課 大嶋 薫)



### なでしこ祭に熊が出た！

11月2日に「なでしこ祭」を行いました。午前中はスポーツ大会を開催し、日頃のストレスを発散。その後、模擬店の準備に入ったところで、熊が出没！ 学生たちは一生懸命に準備作業をし、熊を見ても驚くことなく笑顔で迎えてくれました。  
熊は校内のあちこちに出没し、学

族のためのケアであることは周知されているが、看護師も利用者の死により無力感や喪失感を感じており、グリーンケアを通してご遺族と共に悲しみを乗り越える過程を経験していると述べている。  
(済生記者 玉冲伸弥)



国の方々と意見交換をする機会もあり、同時に多くの示唆を得ることができ、今後の研究における新たな課題も明確になりました。

今後も国際的な視点を取り入れながら、地域社会に根ざした研究と実践を続け、作業療法を通じてより多くの方に貢献してまいります。  
(福岡・大牟田病院 作業療法士 穴井崇士)

★英語の資料作成と発表、初めての国際学会でも単身で参加。さらに多



生たちと一緒にパシャパシャ写真撮影。実は熊の正体は着ぐるみを着た事務員で、学校祭の応援訪問をしていたのでした。

午後からは有志のステージ発表やクラスの出し物があり、校内は大盛り上がり。この日はオープンキャンパスも開催し、高校生も一緒に楽しんでくれました。  
(滋賀県済生会看護専門学校 済生記者 小泉奈穂美)

★かわいらしい熊の登場で、思い出がより深まりましたね。ガオーツの笑顔から楽しさが伝わってきます。  
(大空出版 高橋美憂)

### 院長からの「感謝のみかん」

仕事納めにあたる12月27日、神奈

川島病院・長島敦院長が感謝の気持ちを込めて、各部署にみかんを配って回りました。1年間の頑張りをお祝い、当院の毎年恒例行事となっています。長島院長から直接手渡されるみかんに職員たちは笑顔で応え、温かい雰囲気になりました。

みかんを配る際、院長は各部署の職員たちに直接声をかけ、一人ひとりの士気を高める場面も見られました。職員からは「みかんをもらうのは毎年の楽しみ」といった声が寄せられ、この行事が職員のモチベーションにつながっていることがうかが



がえます。忙しい日々の中で、院長との交流が励みになる、そんな温かい1日となりました。  
(神奈川県病院 済生記者 小山友輝)

★院長先生との大切な年末のひととき。手渡されたみかんと和やかな時間が目に浮かび思わずにっこりしました。  
(大空出版 後藤藍子)

**1年間見守っていてね!**  
(滋賀) 老健ケアポート栗東では毎年、干支の壁飾りを利用者さんと一緒に制作しています。  
制作開始は11月から。職員が模造紙に「巳」のイラストを書き、利用者さんが丸めたお花紙を貼り付けていきます。お花紙を丸める人、張り付ける人に分かれて各々できることを少しずつ。「かわいい絵ね、上手に作れるかな」「お正月は孫に会いたくなるのよ」など、利用者同士の会話も弾みます。  
巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年。巳(み)と実(み)を掛けて「実を結ぶ」年ともいわれます。

良い年になるよう1年間私たちを見守ってくれることを祈りつつ制作を続け、年末にいに巳の壁飾りが完成! 丸めたお花紙で埋まった模造紙を段ボールで裏打ちし、辰の壁



飾りからバトンタッチしました。  
(滋賀・老健ケアポート栗東 介護福祉士 辰見美咲)  
★とてもチャームिंगなへびさん♡今年たくさんのお幸せを運んでくれてありがとうございます。  
(メデイカル・リーフ 坂本陽子)

**おせち作りに初挑戦**

12月31日、一からのおせち作りに初挑戦しました。  
だしをとったり栗きんとんを作ったり...それぞれの料理ができてから、いざ盛り付け。普通の料理にはない「重箱にきれいに詰めていく作業」に時間をとられ、お雑煮の準備まで全部終わったのが1月1日の午前4時。普段とは違った楽しさを感じながら作ることができました。



**今年も濱岡さんから縁起物**  
(愛媛) 松山老健にきたつ苑の利用者・濱岡カズ子さんから今年も縁起が良いタバストリーが届きました。  
濱岡さんはコロナ禍、「本部職員がコロナに感染しないように」と願いを込めたアマビエを当課に送って

反省点としては、写真には写っていない料理もありちよつと作りすぎたかもしれないことと、エビの頭の向きが逆だったことです(本当は左向き)。  
(福岡・飯塚嘉穂病院 経営企画室長 春口勇介)  
★おせちを手づくりするのはすごい! どれもプロ並みでおいしそうです...  
(本部広報課 杉山菜史)

れた方です(本誌2021年9月号・大雑報)。それ以来、愛媛へ出張する度に同苑を訪問、濱岡さんに会うのが楽しみとなっています。

今回の作品は白蛇が宝船を運んでいます。2月に松山で開催の済生会学会は「人財」がテーマ。広報担当者にとつての宝は人材(もちろんなるべく多くの広報予算も...).

今年もたくさんの人と済生会広報を盛り上げていきますように。  
(本部広報課 河内淳史)



**CF 成功への祈りを込めて**

広島病院内視鏡センター設立のためのクラウドファンディング(CF)を老健はまな荘でも盛り上げようと、デイケアのスタッフと利用者さんにメッセージボードを作成してもらいました。

ボードのデザインはデイケアの精鋭メンバーが担当。作成中に小林博文施設長から出た「目標額を達成し



たら達磨に目を入れられるとよいのでは」とのアイデアもすぐに取り入れ、わずか2日間で完成! 材料は全て在庫してあるもので贈うなど制作費も意識してくれ、本当に頭が下がる思いでいっぱいです。

予想以上に大きなボードに仕上がりました。病院に渡すと正面玄関の一番目立つ場所に掲示してくれました。

CFは12月12日に終了。目標額を大きく上回ったことを祝して、松本公治院長が達磨に目を書き込んだそうです。  
(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)

★なんと温かい応援メッセージ。ダルマに目が入った記事は57ページをご覧ください。  
(本部広報課 河内淳史)

**広告索引**

三井住友銀行  
——表紙見返し[表紙2]

次号予告	
<b>済生</b>	No.1149 [令和7年3月号]
済生会の不易流行論 (198)	炭谷 茂
NEWSな済生人	
済生会交差点	
この人	YUNA (iScream) HINATA (iScream)
口福にっぽん (90)	
てづくりおもちや	いまいみさ

**4回目の川崎国際駅伝!**

快晴の空の下、12月9日に(東京中央病院の医師有志で「川崎国際駅伝」に参加してきました。  
市民駅伝最高峰を謳う大会には総勢297チームが集結。7人でタスキをつなぎフルマラソンの距離を走ります(ハーフ駅伝もあり)。  
当院の男子3チームはそれぞれ3時間15分9秒(114位)、3時間15分20秒(115位)、3時間28分51秒(125位)と前回記録の3時

間16分14秒を2チームが上回る結果に。女子2チームはハーフ駅伝を4人で走り2時間7分54秒(4位)、2時間9分57秒(5位)と大奮闘!

個人では研修医2年目の渡邊剛史さんが3キロ13分1秒(78位)、中村凌輔さんが8キロ32分29秒(76位)と好成績を残してくれました。  
来年も参加を考えていますので、ぜひ応援してください。  
(東京・中央病院 糖尿病・内分泌内科 田中伸一)

★来年も快晴の空のもと、皆さんの

済生会 福利厚生制度

# 団体扱自動車保険のご案内

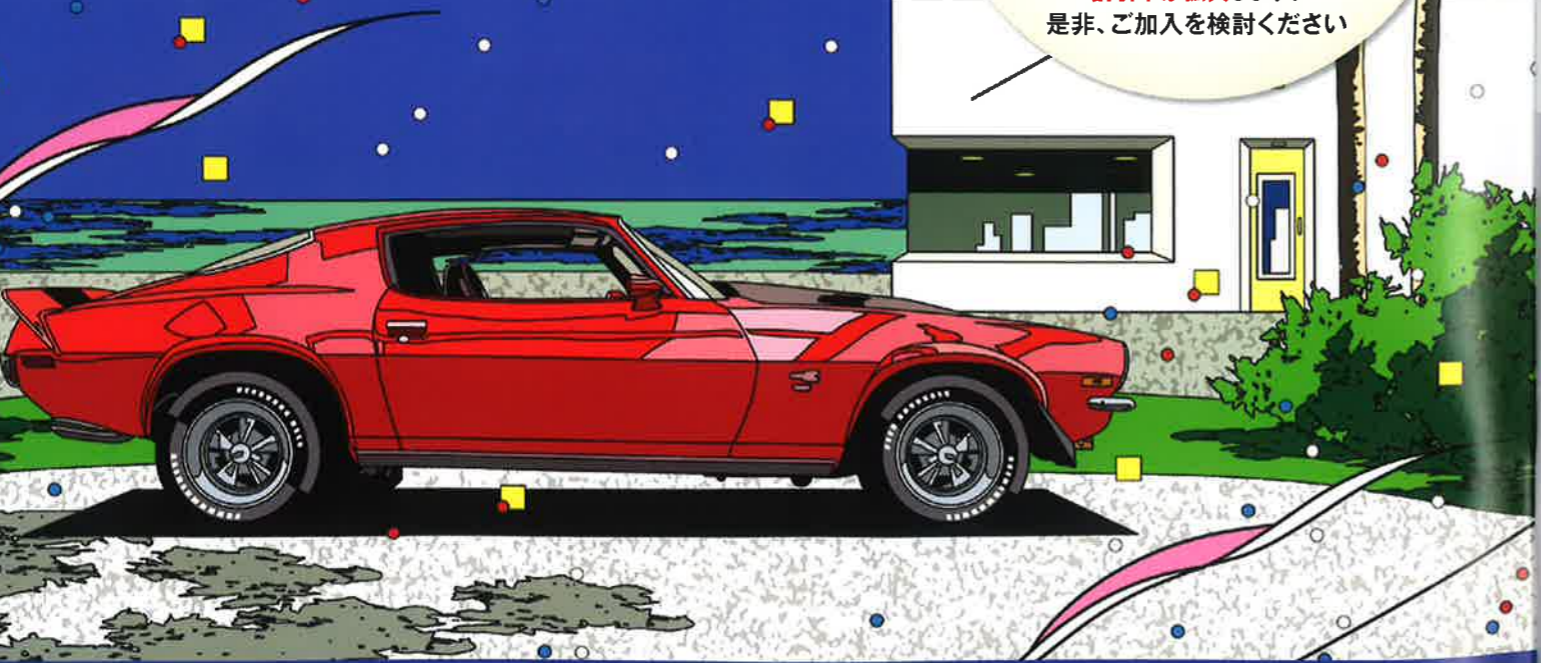
## 取扱い保険会社に

### 三井住友海上火災が加わりました!

# 職場で入れば 選べて、おトク。

団体扱契約は  
一般契約に比べて  
**約5%割安**※

本制度は職員の皆さままで、  
支えていただく制度です。  
たくさんの方が加入することにより  
割引率が拡大します。  
是非、ご加入を検討ください



お見積り依頼・制度の詳細は済生会団体扱自動車保険パンフレットから  
パンフレットの連絡票・保険証券(写)・車検証の3点をご用意ください▶



- 取扱い保険会社
- 損保ジャパン
- 東京海上日動火災
- あいおいニッセイ同和損保
- 三井住友海上火災

※団体扱割引は一般契約と異なり割引増がわかりませんので、約5%割安となります。団体扱年一括払いは一般契約年一括払に比べて、5%割安となります。  
●このポスターは団体扱自動車保険の概要を説明したものです。  
●詳細につきましては取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。  
●団体扱自動車保険にご加入いただけるのは、ご契約者および被保険者が引受保険会社の定める条件を満たす場合のみとなります。



快走が見られますように……陰ながら応援しています！  
(大空出版 江口仁盛)

**皆の願いがかないますように**  
1月の最初の土曜日活動は、毎年恒例の初詣。今年は11日に職員4人と利用者さん11人で、熊本市西区・高橋稲荷神社を参拝しました。年の初めの恒例活動となっているため、神社を参拝する際の所作も利用者さんは心得ています。お賽銭は「ご縁」があるようにと5円を入れ(もつと入れている方も)、皆でお祈りしました。一年の願いを目を閉じ願う人、願いごとを小さい声で唱えながら願う人などそれぞれでした。



が、何をお願いしたかは一人ひとりの秘密です。  
また、数人の利用者さんがおみくじを引いたところ、ほとんどの人が「大吉」。かぎの利用者さんは強運の持ち主が多いようです。  
済生会関係者の皆さんにとって、この一年が良い年でありますように！  
(熊本・済生会かがやき サービス管理責任者 中川路津由美)  
★大吉の方が多かったとのこと、末吉の私にもご利益パワーのおすそ分けをお願いします。  
(本部広報課 杉山菜央)



## 済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。  
以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。  
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
会長 潮合義子  
理事長 炭谷 茂  
本部11東京 支部1140都道府県  
病院 83  
診療所 20  
介護医療院 2  
介護老人保健施設 28  
介護施設 1  
児童福祉施設 25  
老人福祉施設 119  
障害者福祉施設 9  
看護師養成施設 7  
訪問看護ステーション 66  
地域包括支援センター 31  
地域生活定着支援センター 5  
その他 9  
合計 405 (数字は令和5年度)  
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。  
職員数は全国で約6万6000人。

## 済生

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年2月10日発行  
通巻第1148号(第101巻第2号)

編集兼 炭谷 茂  
発行人  
発行所 社会福祉法人済生会  
〒108-0073  
東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビルディング21階  
TEL: 03-3454-3311(代)  
FAX: 03-3454-5576  
印刷所 株式会社白橋  
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人済生会

日本唯一の診療船「済生丸」を描いてみよう!



# 済生丸お絵かき コンテスト!



- 募集期間 2025.1.20~3.10
- 募集テーマ 「済生丸」
- 提出方法 X内DMまたはメールで送ってください
- 選考 X内で投票 + 本会内審査
- 表彰 特賞 表彰状進呈  
ポストカードデザインに採用
- 参加賞 済生丸見学券(停泊中)  
済生丸ポストカード進呈



社会福祉法人恩賜財団済生会  
瀬戸内海巡回診療事業

TEL : 086-252-2211

Mail : saiseimaru@okayamasaiseikai.or.jp

みなさまからのたくさんのご応募をお待ちしております。

※特賞の作品については、今後作成予定の「済生丸」ポストカードデザインに使用させていただきます。  
なお、ポストカードの発送は2025年11月頃を予定しております。

Xアカウント

